

市原市^{やま}山^だ田遺跡群

2009

千葉県千葉農林振興センター
市原市教育委員会

序 文

市原市は、南北に貫流する養老川がもたらした肥沃な平野と、山間部の緑豊かな自然環境をもち、また、市内各地には先史以来の多くの遺跡が存在し、人びとの足跡を今日に伝えています。

山田遺跡群の発掘調査は、三和養老地区における農業基盤整備事業に伴って行われたものであり、事業計画の段階から埋蔵文化財の保護と調和を図るため、関係諸機関と慎重に協議を重ねた結果、遺跡の一部について記録保存の措置をとることとなりました。

平成17～19年度の3ヵ年にわたり約70ヘクタールに及ぶ広大な範囲を調査した結果、古墳や土坑などの遺構が発見されました。また、県内において類例の少ない古代の硯が出土するなど、養老川を望む沖積地における遺跡の貴重な成果を得ることができ、この成果が地域研究の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査に当たり多大なご協力をいただきました文化庁記念物課、千葉県教育庁文化財課、千葉県千葉農林振興センター並びに地元関係各位の方々に厚く御礼申し上げます。

平成21年 3 月

市 原 市 教 育 委 員 会
教育長 山 崎 正 夫

例 言

- 1 本報告書は、千葉縣市原市磯ヶ谷地先ほかに所在する山田遺跡群の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、農業基盤整備事業にともない、千葉県千葉農林振興センターの委託を受け、千葉県教育委員会の指導のもと、平成17年度は財団法人市原市文化財センター、平成18年度以降は市原市教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査は、調査対象範囲697,632㎡のうち、15,552㎡について実施した確認調査、及びその結果を受けて実施した1,109㎡の本調査である。これは、三和養老地区遺跡発掘調査事業（文化庁）、三和養老地区埋蔵文化財調査事業（千葉県）及び市単費事業（市原市）として行った発掘調査面積の総計である。
- 4 発掘調査・整理作業は、以下のとおりに行った。

発掘調査 平成17年 9月1日～平成18年1月27日 担当 近藤 敏 小川浩一
（平成17年度は、財団法人市原市文化財センターが実施した）
平成18年10月10日～平成19年3月6日 担当 小川浩一
平成19年11月5日～平成20年3月13日 担当 牧野光隆
整理作業 平成20年7月31日～平成20年11月30日 担当 小川浩一
（平成18年度以降は、市原市埋蔵文化財調査センターが実施した）
- 5 本書の編集は小川が行った。
- 6 本書で示す北方位は、平面直角国家座標関東第IX系座標北であり、基本的に旧座標系（関東第IX系）で表記しているが、括弧表記で世界座標系を併記した。なお、座標変換は国土地理院座標変換プログラムTKY2JGDを使用している。
- 7 本書で使用した水準は、A～C地点は平成17年度千葉県水準測量成果、G（平成17年調査分）～J地点は平成16年度千葉県水準測量成果を使用し、その他の地点及び本調査部分は平成18年度千葉県水準測量成果を使用している。
- 8 本遺跡の市原市埋蔵文化財調査センターの調査コードはセ401・402・411・426・427である。
- 9 本書に収録した出土遺物および記録類は、市原市埋蔵文化財調査センターで収蔵、保管している。

本文目次

序 文	第5節 H・K地点	17
例 言	第6節 I・J地点	19
第1章 はじめに	第3章 本調査(J地点)の成果	27
第2章 確認調査の成果	第1節 土坑跡	27
第1節 A・B地点	第2節 古墳	27
第2節 C・D地点	第3節 グリッド出土遺物	28
第3節 E・F地点	第4章 まとめ	37
第4節 G地点	報告書抄録	巻末

挿図目次

第1図 山田遺跡群位置図	3	第14図 出土遺物(3)	23
第2図 山田遺跡群周辺地形図	5～6	第15図 出土遺物(4)	24
第3図 柱状図	7	第16図 出土遺物(5)	25
第4図 A地点	9	第17図 出土遺物(6)	26
第5図 B・C地点	11	第18図 本調査(J地点)平面図	29
第6図 D・E地点	12	第19図 断面図	30
第7図 F地点	14	第20図 出土遺物(7)	31
第8図 75トレンチ	15	第21図 出土遺物(8)	32
第9図 G地点	16	第22図 出土遺物(9)	33
第10図 H・K地点	18	第23図 出土遺物(10)	34
第11図 I・J地点	20	第24図 出土遺物(11)	35
第12図 出土遺物(1)	21	第25図 出土遺物(12)	36
第13図 出土遺物(2)	22		

表目次

第1表 出土遺物観察表(1)	38	第4表 出土遺物観察表(4)	41
第2表 出土遺物観察表(2)	39	第5表 出土遺物観察表(5)	42
第3表 出土遺物観察表(3)	40		

写真図版目次

図版1 遺跡の位置と周辺地形(空中写真)	図版9 出土遺物写真(確認調査)
図版2 A・B地点	図版10 出土遺物写真(確認調査)
図版3 C・D・E地点	図版11 出土遺物写真(本調査)
図版4 F・G地点	図版12 出土遺物写真(本調査)
図版5 H・I・J地点	図版13 出土遺物写真(本調査)
図版6 J・K地点	図版14 出土遺物写真(本調査)
図版7 本調査(J地点)001～003号跡	図版15 出土遺物写真(出土埴輪)
図版8 出土遺物写真(確認調査)	

第1章 はじめに

1 遺跡の概要

(1) 位置と環境

山田遺跡群は、市原市を南北に縦貫する養老川の中流右岸を西約0.6kmに望む、標高11～22m前後の沖積地に位置する。この沖積地は、養老川の幾度の氾濫によってもたらされた大量の土壌によって広大な平野を形成しているが、南西側端部は近世期までの旧曲流（メアンダー）によって段丘崖状に開析されている。旧メアンダーとの比高差は、4 m程を測る。

また、西側0.3kmの自然堤防上には、国道297号が南北に縦貫しており、遺跡はその後背地に位置する。遺跡のほぼ中央を養老川の支流である川坪（かつぼ）川が南東から北西方向に横断しており、北東側の台地麓付近は湿地状になっている。遺跡の範囲は1 km四方に及び、東側には養老川水系によって樹枝状に開析された標高70～90m程の台地が迫り、段丘を呈しながら本遺跡まで降りてきている。

つまり、本遺跡東側は磯ヶ谷・松崎・土字の各台地から延びる低位段丘面に連なるとともに、西側は養老川右岸に展開する沖積地となっており、広範囲にわたる遺跡となっている。

(2) 調査の概要

確認調査を行うにあたり、公共座標を使用して50×50mの方眼網を設定したが、トレンチの配置は、調査後の耕作における影響を防ぐため、畦畔を破壊することはせず、各水田の区画内に収まるようにし、長軸に対して直交方向に設定した。トレンチの幅は、耕作車の幅を考慮し1.5m以内とし、施回時の沈下を防ぐため、隅部や畦畔付近にも設定しないこととした。また、原則的に1 m以上の掘削は、復旧後の影響を考え行わないこととした。

本調査については、公共座標を使用して20×20mの方眼網を設定し、記録を行った。なお、表土除去は基本的にバックホウを使用している。

調査の成果では、古墳時代後期の円墳1基が検出され、古墳時代中期の土坑及び平安時代の竪穴状の窪みなどが確認されたほか、弥生時代後期や古墳時代の溝状の流路などが確認された。

出土遺物では、東側松崎の台地から延びる低位段丘面に近接する本調査区（J地点）周辺より平安時代の風字硯などが出土している。また、古墳周溝内よりTK43型式期と考えられる須恵器蓋・杯が出土するとともに、古墳周囲では砂礫に混じって円筒埴輪片が多数出土している。

(3) 周辺の遺跡

養老川中下流域の沖積地の調査としては北西約4 kmに西野遺跡群や十五沢坊ヶ谷遺跡の事例があり、奈良・平安時代を中心とした掘立柱建物跡や土坑跡、及び中世鎌倉期と考えられる烏帽子が出土した溝状遺構等が検出されている。また、北方1.5kmの段丘面には弥生時代中期宮ノ台式期から古墳時代後期の竪穴住居跡が継続的に検出された叶台遺跡がある。

近隣では、本遺跡の西方0.5kmの自然堤防上に山田大宮遺跡がある。弥生時代中期宮ノ台式期の方形周溝墓群が展開しており、背後にあたる本遺跡において、その構成員を充足する水田等生産遺跡の存在が予想された。一方、南東側1.5kmには標高70m程の台地上に門脇遺跡が存在する。1985年に千葉県文化財センターによって調査が行われ、「海里長」と書かれた墨書土器が出土しており、海部里（郷）家との関連が注目されている。

また、東側0.7kmには、標高34m前後の段丘面上に古墳時代末～奈良・平安時代を中心とした掘立柱建

物跡や竪穴住居跡を検出した松崎中里遺跡が存在している。このうちの掘立柱建物跡は、柱掘り方が1 m程度の総柱建物が含まれており、近隣の門脇遺跡とともに海部里（郷）家との関連が想定されるだろうか。ちなみに、段丘麓の本遺跡群J地点からは、風字硯が採集されている。松崎中里遺跡等が展開する東側台地上から流出した遺物の可能性がある。洪水等による流れ込みであろうか。

東側松崎の台地と本遺跡群J地点間の段丘面には、径10～20mの小規模な円墳群である春日神社古墳群や折戸古墳及び松崎的場古墳群が展開している。そのうち、春日神社古墳群からは円筒埴輪が出土している。

一方、南西側0.7kmの養老川旧河道（メアンダー）内左岸の微高地上には、古代寺院である二日市場廃寺が存在している。1983年に千葉県文化財センターによって調査が行われており、紀寺系の軒丸瓦や掘立柱建物跡等が確認された。さらに、南側2 kmには、土宇遺跡が存在しており、縄文時代中期～古墳時代にかけての集落跡を検出している。

山田遺跡群を取り巻く台地上や段丘面及び微高地には、縄文時代から奈良・平安時代の遺跡が多く展開しており、沖積低地を形成する本遺跡においても、これらと関連する遺構の存在が予想された。

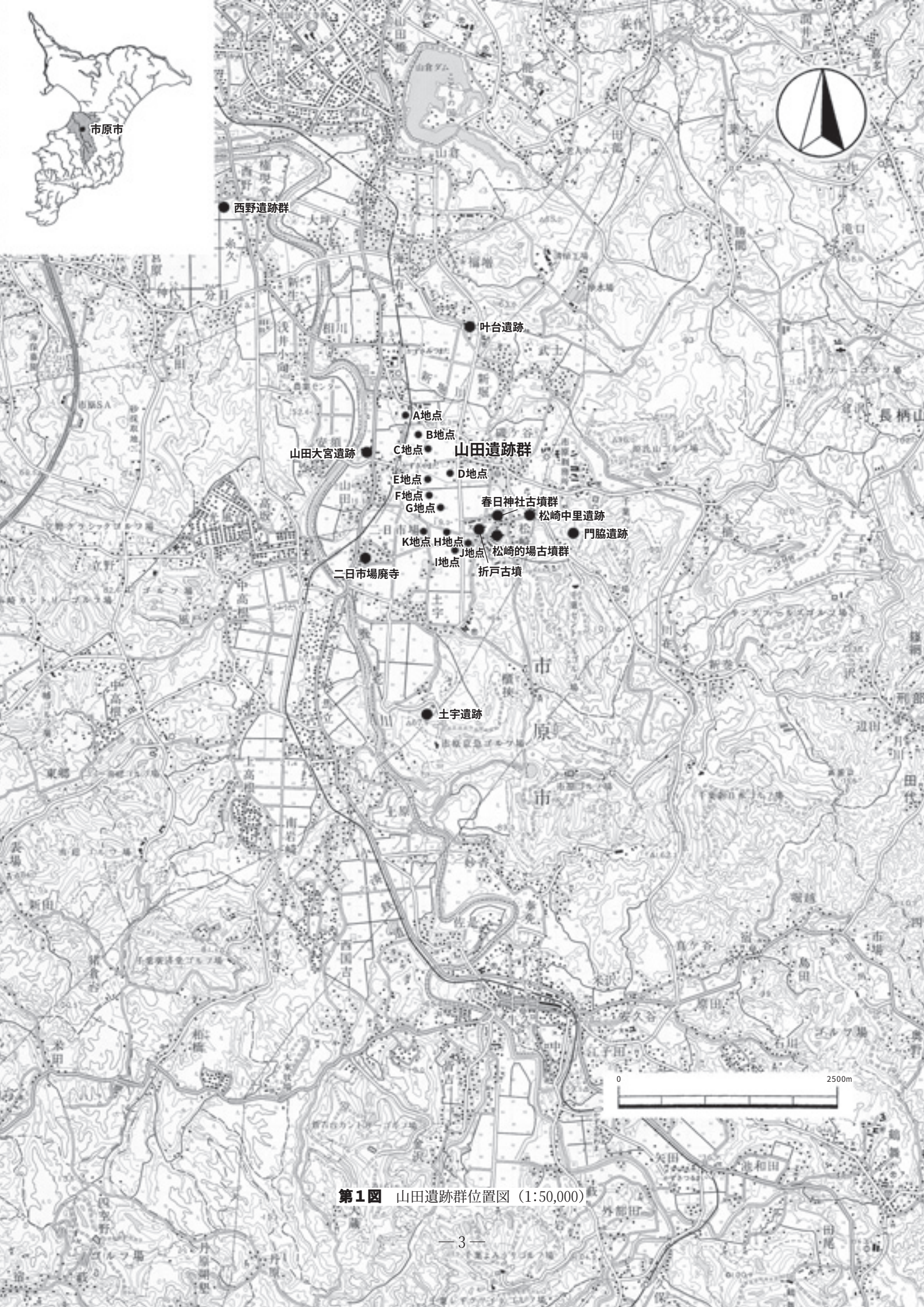
2 調査の経緯

山田遺跡群は、養老川中流域右岸に広がる肥沃な平野に所在する。この一帯に広がる水田経営の効率化を図るべく、千葉県千葉農林振興センターでは、圃場や灌・排水施設を整備するため、経営体育成基盤整備事業を計画した。このため、市原市教育委員会は事業予定地内に含まれる埋蔵文化財の取扱いについて、千葉県教育委員会文化財課をはじめ、千葉県千葉農林振興センターや市原市養老土地改良区など関係諸機関と協議を重ねた結果、発掘調査による記録保存の措置を講ずることとなった。調査については、千葉県教育委員会文化財課の指導のもとに、千葉県千葉農林振興センターとの委託契約に基づき、平成17～19年度にかけて国庫補助事業として確認調査を行い、その結果を受けて本調査を行うこととなった。

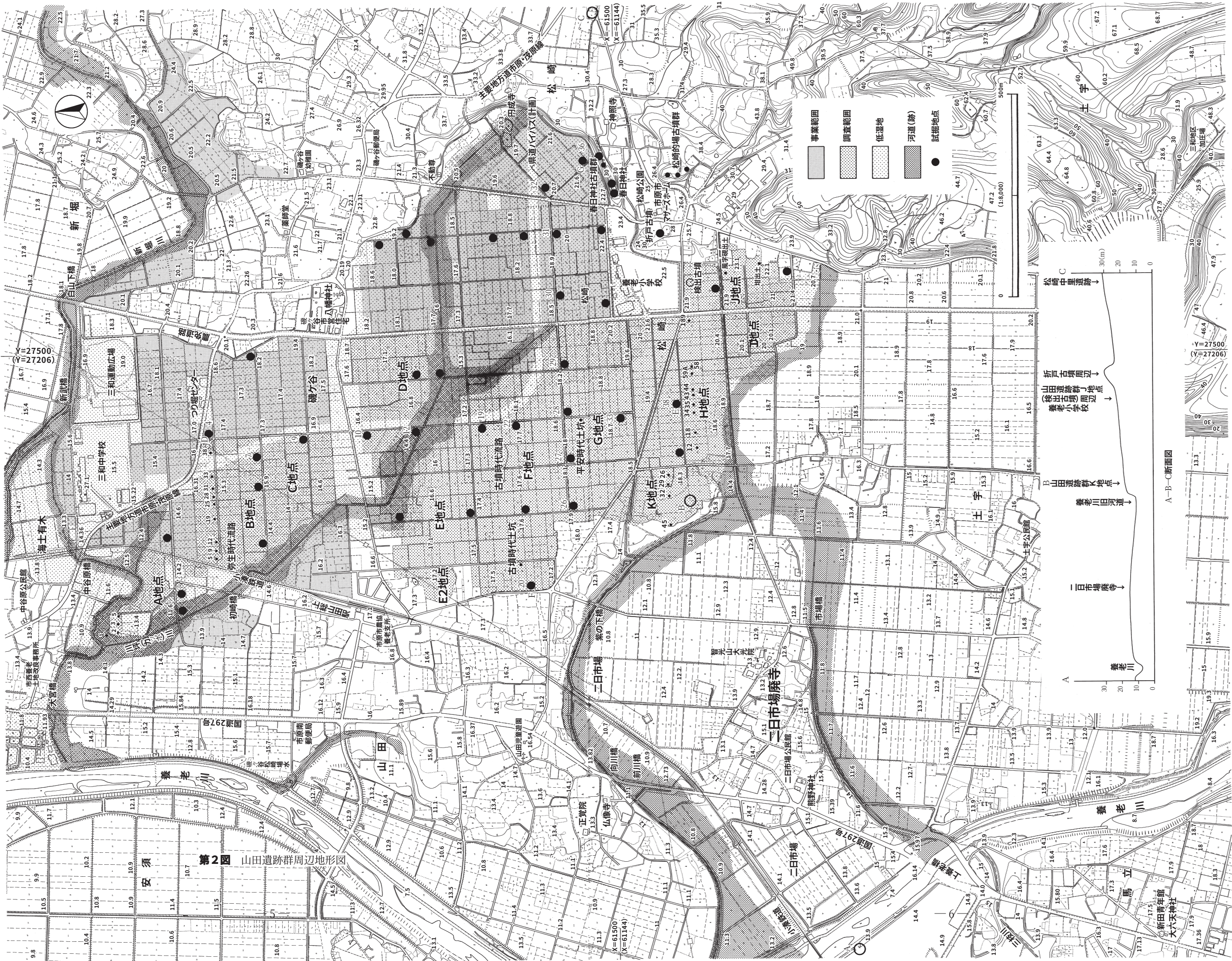
今回の調査範囲は、経営体育成基盤整備事業として計画された約108haに及ぶ事業範囲のなかで、山田遺跡群として周知されている遺跡範囲のうち、事前の試掘の段階で把握された土層データや地形資料を基に微高地と判断した約70haが対象となった。方針として調査対象範囲における確認調査面積を、微高地での切り土範囲では5%、盛り土範囲では1%とし、低湿地は慎重工事扱いとすることが関係者協議で決められた。

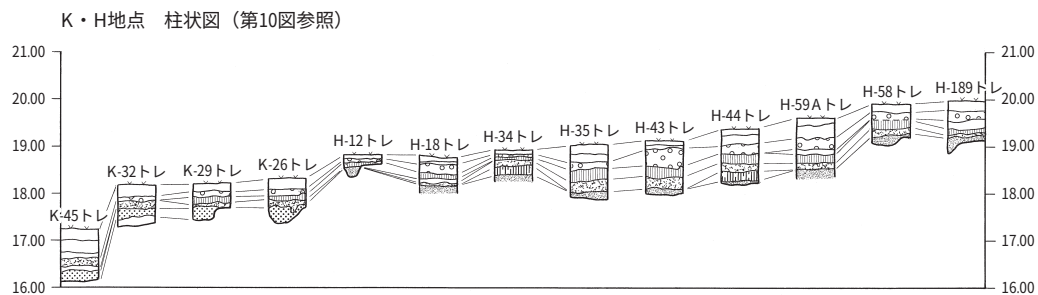
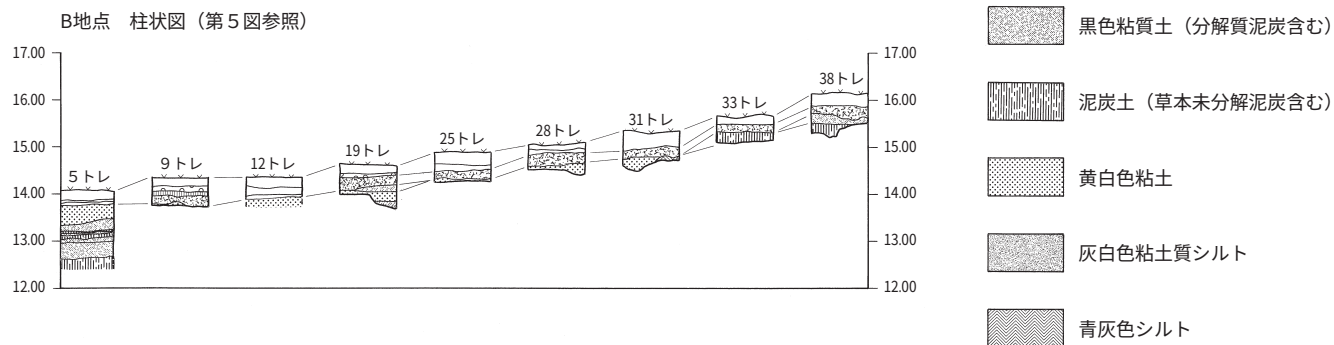
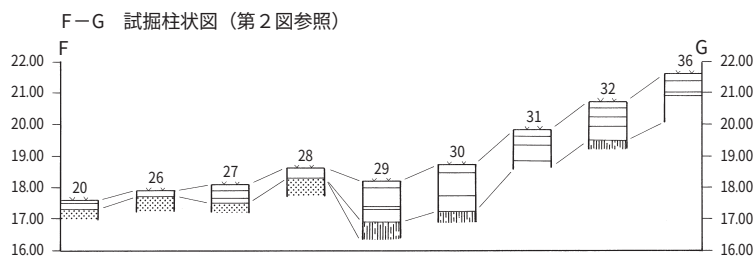
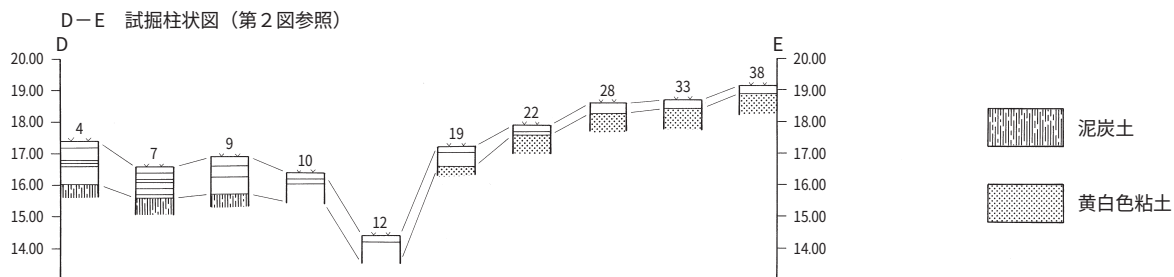
その後、平成17年度の調査の結果、調査対象範囲に低湿地部分が存在すること、微高地における切り土・盛り土の範囲分けが必ずしも実態に即していないこと等が明らかとなった。この結果を受けて、調査面積の再検討を行うよう千葉県教育委員会文化財課から指導があり、平成18・19年度においては、調査対象範囲における確認調査面積を微高地については3%、低湿地については1%に変更し、確認調査を行うこととなった。

その後、遺構を確認した範囲のうち、遺構の保護ができないと判断された東側低位段丘面上の1,109㎡が本調査の対象となり、平成19年度において本調査が行われた。



第1図 山田遺跡群位置図 (1:50,000)





第3図 柱状図

第2章 確認調査の成果

第1節 A・B地点

A地点

A地点は、本遺跡群の北西端部に位置する。国道297号が縦貫する養老川の自然堤防を西に望み、東に支流である新堀川が北側を廻りこんでいる。そして、西に隣接して流れる支流の川坪（かつぼ）川が北上して養老川に注ぎ込んでおり、川坪・新堀両河川に挟まれた場所に位置する。本地点の標高は、11～16m程度を測る。自然堤防上には、弥生時代中期の方形周溝墓群を検出した山田大宮遺跡があり、本地点は、墓域を構成したムラの成員を充足させる生産遺跡等の関連遺跡の存在が想定された。

確認調査トレンチにおける遺構確認面までの深さは、30～90cmとばらつきがある。北西側の川坪川を望む1～3及び5トレンチにおける堆積土層断面を観察すると、基盤層として把握していた黄白色シルト質粘土層と泥炭の分解土壌である黒色粘質土層が層厚5～15cm程度で複雑に互層となっている状況が観察された（第3図 柱状図参照）。富士宝永テフラが見られる暗灰色粘質土層より上の近世期以降は比較的安定した状況が看取されるものの、中世より以前は滞水による湿地的状況と洪水等による氾濫堆積土の流入が繰り返あったと考えられ、遺跡が展開できる安定した状況にはなかったと考えられる。水田等の生産遺跡の確認は、狭小なトレンチ調査では捕捉するに至らなかった。

図示できる遺物は、中央部に位置する45トレンチより出土した土師器杯の底部1のみである。

B地点

B地点は、本遺跡群の北部にある。国道297号が縦貫する養老川の自然堤防を西に望み、隣接部を支流である川坪川が北西に向かって養老川に注ぎ込んでおり、地形的には養老川の自然堤防背後に展開する後背湿地に位置する。標高は、14～17m程度を測り、東に向かうほど高くなっていく。基盤層と想定される黄白色シルト質粘土層が西側においては、層厚30～40cmで堆積しているが、直下には分解質泥炭土である黒色粘質土及びマコモ等の草本未分解泥炭土が堆積している。東側については現耕作土直下の黒灰色粘質土層より下部は、分解質泥炭土である黒色粘質土及びマコモ等の草本未分解泥炭土が層厚0.5m以上にわたって堆積しており、黄白色シルト質粘土は観察されなかった。本地点も長期にわたって湿地的な状況が看取される（第3図 柱状図参照）。

遺構は、川坪川を望む西端部中央の73トレンチにおいて弥生時代後期の溝状遺構を確認したが、掘り込みが浅く不整形であり、深度も一定しないことから、川坪川へ流れる流路の可能性はある。遺物は遺構内より赤彩を施した弥生時代後期壺片2が出土している。他には、北東部34トレンチより縄文時代後期粗製深鉢1などが出土しているが、出土の状況は限定的であると言わざるを得ない。水田等の生産遺跡の確認は、狭小なトレンチ調査では捕捉するに至らなかった。



第2節 C・D地点

C地点

C地点は、本遺跡群の北側にあり、立地の状況はB地点と同様であり、地形的には養老川の自然堤防背後に展開する後背湿地に位置する。標高は、14～17m程度を測り、東に向かう程高くなる。

確認調査の調査トレンチは、関係者による事前協議により耕作車走行方向、すなわち長軸方向と直交するように設定することが求められ、また、水田隅部付近は耕作車旋回時の沈下防止のため設定ができなかった。

土層断面の状況は、一部に基盤層と想定される黄白色シルト層が堆積しているものの、層厚10cm未満で青灰色シルト層に変わる。直上は分解質泥炭土である黒色粘質土が堆積していた。また、表土下の灰色粘土層直下に泥炭土が露出しているトレンチも存在しており、湿地的な不安定な状況が観察された。

図示できる遺物は、南東端部に位置する94トレンチより出土した縄文時代前期浮島式の深鉢胴部片1・2及び北側14トレンチで出土した砥石片3のみである。

D地点

D地点は、本遺跡群の東部中央にある。中央に、松崎中里遺跡などを抱える台地下にある谷津より発し、養老川へと流れ込む支流、川坪川が南東から北西に向かって流れており、地形的には養老川の自然堤防背後に展開する後背湿地に位置する。標高は、14～18m程度を測り、東に向かうほど高くなっていく。ちなみに、川坪川流域は段丘を呈しており、段丘面との比高差は2 m程度である。流域付近は、基盤層と想定される黄白色シルト質粘土層が存在しておらず、表土下の灰色粘土層直下には泥炭土が露出していた。少なくとも近世期までは湿地化していたのではないかと考えられる。本遺跡群中、最も湧水の激しい地点のひとつであった。

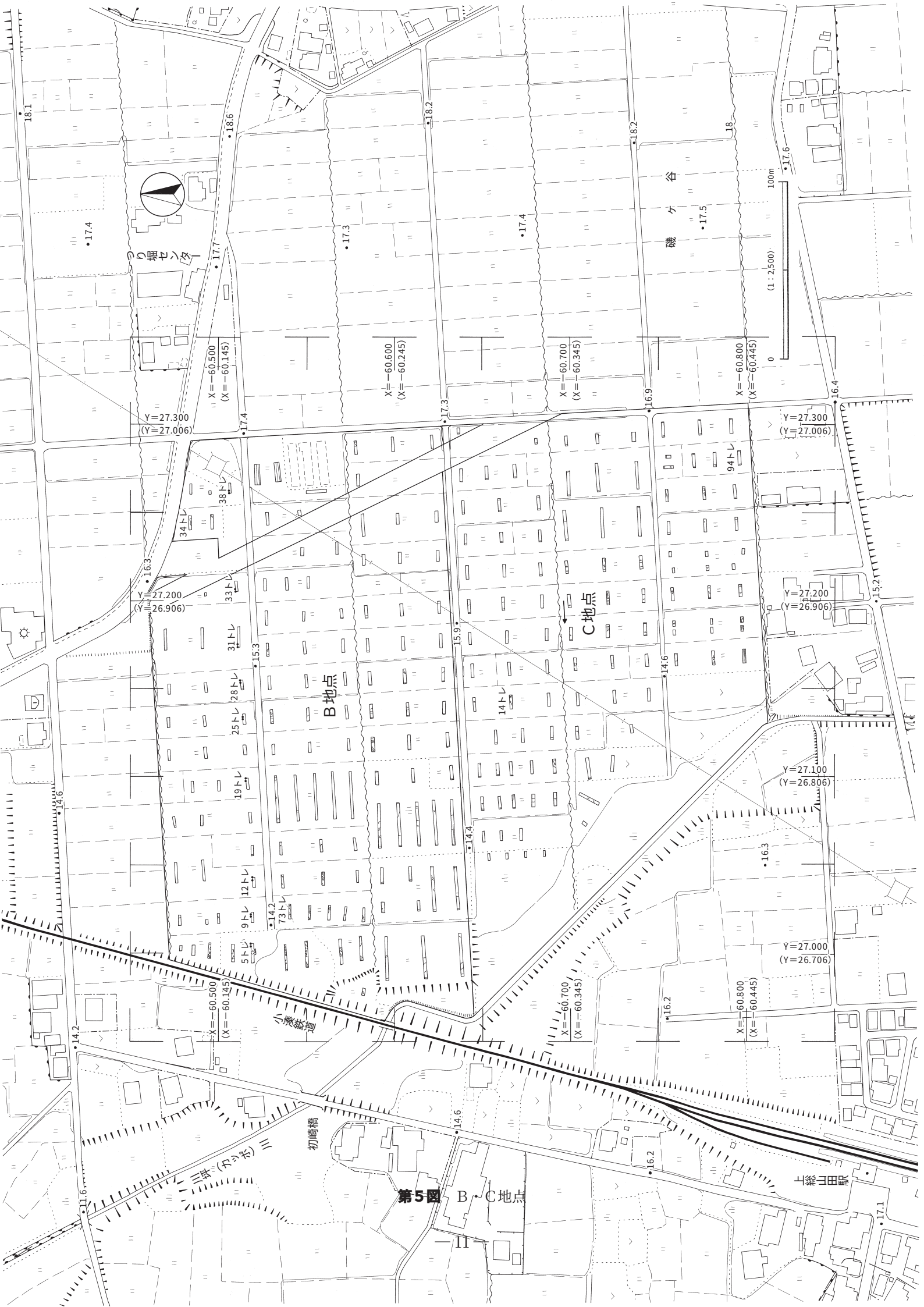
また、標高16m付近の段丘面上においても基盤層である黄白色シルト質粘土層が存在しておらず、灰褐色粘土下に灰色砂層が露出している状況であり、絶えず流水の影響に晒されていた状況が観察された。ちなみに、東隣する農免道路東側に広がる低湿地は、試掘による土層観察においても黄白色粘土は存在せず、標高19m程度を測りながらも表土直下には黒色粘土及び泥炭土しか形成されていなかった。松崎の台地下にある谷津から湧き出る湧水により、現代に至るまで湿地であったと考えられる（第3図 F-G 試掘柱状図参照）。

遺構は、上記のような状況から確認されなかった。図示できる遺物は、北寄りに位置する363トレンチより出土した石硯片1のみである。割れ面を、砥石として再利用している。

第3節 E・F地点

E地点

E地点は、本遺跡群の西部中央に位置し、国道297号が縦貫する養老川の自然堤防を西に望む。南東の松崎中里遺跡等が存在する台地下より発し、養老川へと注ぎ込む川坪川が北西に向かって流れており、地形的には養老川の自然堤防背後に展開する後背湿地に位置する。なお、西側が平成19年度にE 2地点とし



第5図 B・C地点



第6図 D・E地点

て追加調査された。標高は、14～17m程度を測り比高差があるが、標高14m前後の川坪川流域は段丘を呈しており、段丘面との比高差は2 m程度である。この川坪川を北に望む段丘肩部に、字「小見六」と呼ばれる周囲の水田区画とは異なる字切りの一画があり、耕地整理前の地割りが想定されたが、それを窺わせるような遺構は確認されなかった。流域付近は、基盤層と想定される黄白色シルト質粘土層が観察されず、表土直下より黒色の分解質泥炭土が堆積していた。そして、徐々にマコモ等の草本未分解泥炭土に移行し、青灰色砂に至る状況が観察された。一帯は水田化されず、草原となっており、現代に至るまで湿地状態であったと考えられる。一方、南西側は標高17m後半を測るが、堆積土は表土下の灰色粘土層直下には黒色の分解質泥炭土が堆積していた。そして、徐々にマコモ等の草本未分解泥炭土に移行し、青灰色シルト質粘土に至る状況が観察された。この範囲も少なくとも近世期以前は湿地状態であったと推察される。

図示できる遺物は、南西部に位置する97トレンチより縄文時代後期の可能性がある鉢1が出土している。内面に沈線状の凹みが見られた。堀之内式の影響か。他には土師器片や、こね鉢片5、「開元通宝」6及び「元祐通宝」7などが出土しているのみである。

F地点

F地点は、本遺跡群のほぼ中央にあり、国道297号が縦貫する養老川の自然堤防を西に望む標高17～18m程度の微高地に位置する。地形的には、養老川の自然堤防背後に展開する後背地に位置するものの、水はけの良好な安定した立地を示す。調査トレンチにおける遺構確認面までの深さは20～60cmである。土層断面の状況は表土下灰褐色粘土、黒灰色粘土及び黒色粘質土が堆積し、基盤層である黄白色粘土に至る。黄白色粘土の層厚は60cm以上あり、A地点に見られたような黒色粘質土との激しい互層は見られなかった。灰褐色粘土には一部に富士宝永期のテフラと考えられる白色粒が散っており、近世期以前においても安定していた状況が観察された。

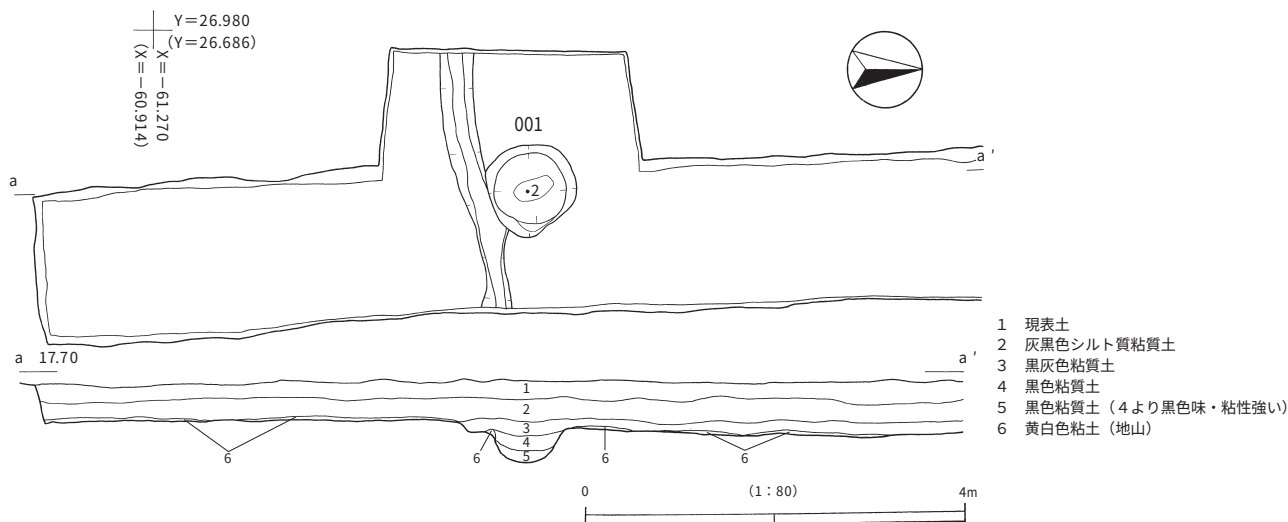
遺構は、西側中央部付近75トレンチより古墳時代中期の土坑跡001を確認した（第8図参照）。トレンチ内南側に位置し、平面形態は不整な円形を呈し、平面規模は0.98×0.96m、深さは0.38m程度を測る。覆土は、黒色粘質土を主体としている。遺物は、底面直上より土師器埴2が出土している。底部がやや突出しており、外面はヘラミガキが施される。

一方、001に接するようにして、幅0.38m、深さ0.18m程度の小規模な溝が、やや蛇行しながら東西方向に横断している。覆土は、灰褐色土を含んでおり、近世期以降の溝の可能性が高いが、001を井戸状遺構と考えれば、それに伴う排水路である可能性はある。

また、中央東寄り193～197トレンチ及び275～277トレンチにおいて、溝状遺構を確認した。幅は0.5～1.2mを測り、一定していない。深さは0.2～0.3m程である。弓なりに蛇行すると考えられ、覆土は黒色粘質土を主体とする。遺物は276・277トレンチより古墳時代と考えられる高杯杯部4、小型甕9、10、20、21や甕底部17、18、22、24、26及びミニチュア土器28等が出土している。溝は東西方向に横断しており、B73トレンチ同様、松崎の台地下より湧き出る流水や洪水時の氾濫水が養老川へと流れ込む流路の可能性はある。周囲のトレンチからは凹み底の底部を持つ甕16等も出土しており、付近に古墳時代の遺構が存在している可能性がある。ちなみに、灰色砂質土を主体とする同様の溝が数条にわたって東西に横断しており、近世期以降に至るまで流路が複数存在していたと考えられる。出土遺物は、K地点と共に本遺跡群の中で最も多かった。出土は主に75トレンチ以南の南西側及び上記溝状の流路が確認された中央東寄り付近から多く出土している。その他の図示できる遺物は、南端に位置する221トレンチより縄文時代後期と考えられる深鉢1が出土している。南西寄り56トレンチからは、赤彩を施し脚部に穿孔をしている高杯5が



第7図 F地点



第8図 75トレンチ

出土し、西寄り73トレンチからは杯部下端が突出するような高坏8が出土している。平安期まで下るか。また、中央191トレンチより球胴状を呈し、口縁部内面にハケメがある甕11、西部2トレンチ、中央部207トレンチからカワラケ片29、30が出土している。75トレンチから南西部及び中央東寄り付近を中心に他にも遺構が存在する可能性が高いと考えられる。

第4節 G地点

G地点

G地点は、本遺跡群の中央南寄りにあり、国道297号が縦貫する養老川の自然堤防を分断するように養老川旧河道が北東に激しく曲流する右岸約150mに位置する。標高は18～20m程度を測り、旧河道水田面との比高差は7m程である。旧河道により浸食され、旧河道水田面と本地点の間は段丘崖状を呈している。

調査トレンチにおける遺構確認面までの深さは20～60cmである。土層断面の状況はF地点とほぼ同様である。低湿地である東部を除き、近世期以前においても安定していた状況が観察された。

遺構としては、中央部北寄り105・166トレンチより竪穴状の窪み跡を確認した。トレンチ内南側に位置し、平面形態は不整な円形を呈しているものと考えられる。深さは最も深いところでも0.1m程度である。竪穴住居跡の掘り方が露出しているとも考えられる。覆土は、黄白色粘土ブロックを含む黒灰色粘質土を主体としている。遺物は、ロクロ土師器杯1～4が出土している。4は、外面に墨書（則天文字「天」か）が書かれていた。底部は回転糸切り離しであり、平安期の遺構が存在していた可能性は高いと考えられる。他の図示できる遺物は、南西部に位置する125・128トレンチから底部回転糸切り離しの土師器杯6、7や南部に位置する11トレンチより須恵器高台付杯13などが出土している。



第9図 G地点

第5節 H・K地点

H地点

H地点は、本遺跡群の南側にある。国道297号が縦貫する養老川の自然堤防を分断するように養老川旧河道が北東に激しく曲流する右岸約200mに位置する。標高は18～21m程度を測り、東に向かうほど高くなっていく。旧河道水田面との比高差は6m程である。また、南西側隣接部は土宇の段丘下より発し、旧河道に流れ込む支流跡があったことが空中写真より確認され、流水の影響を絶えず受けていたことが想定された。F・G地点とは異なる状況を呈す。

調査トレンチにおける遺構確認面までの深さは30～80cmである。土層断面の状況は、北西側では表土下に富士宝永テフラを含む灰褐色粘土が観察され、以下黒灰色粘土を経て灰白色粘土質シルトに至る安定した状況を見せているが（第3図 柱状図参照）、I地点に隣接する南東側については、表土下の灰褐色粘土以下、黒色分解質泥炭土を経て青灰色シルト質粘土に至る状況が観察され、南側支流跡の影響を強く受けた湿地的な状況が窺える。

図示できる遺物は、中央部に位置する55トレンチ等から高杯脚部2～8などが出土している。他には西部に位置する12トレンチより鉢片10が出土している。戦国期の所産か。

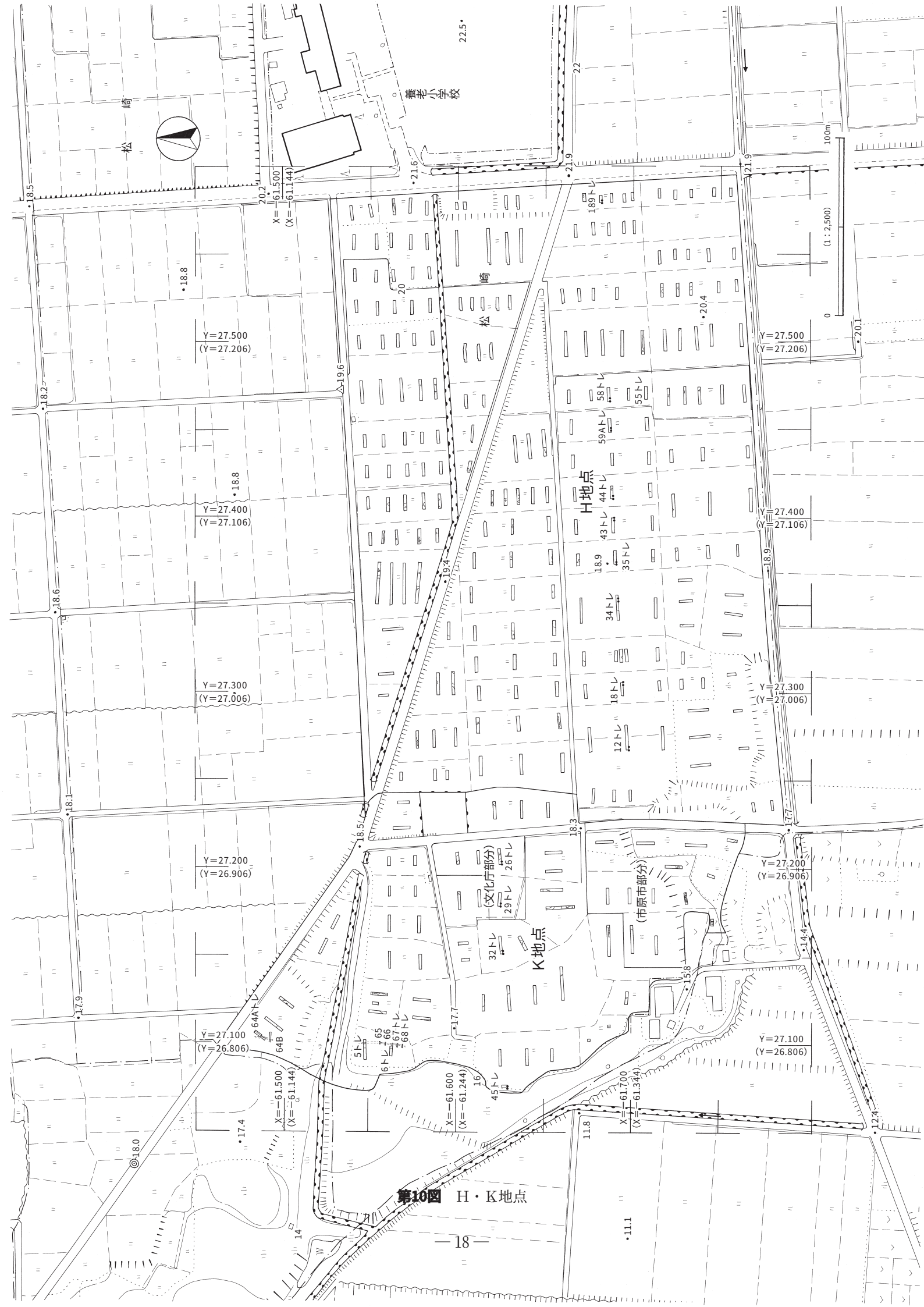
K地点

K地点は、本遺跡群の南西部にあり、国道297号が縦貫する養老川の自然堤防を分断するように養老川旧河道が北東に激しく曲流する右岸沿いに位置する。標高は16～18m程度を測り、旧河道水田面との比高差は4m程である。旧河道により浸食され、本地点西側は段丘崖状を呈している。地形的には、養老川の旧河道に隣接するものの、水はけの良好な立地を示す。南西800mの養老川旧河道曲流内の微高地には、二日市場廃寺が存在していたと推定されており、関連する遺構・遺物の存在が想定された。

土層断面の状況は、北側は表土下に富士宝永テフラを含む灰色粘土があり、以下灰褐色粘土、黒灰色粘土を経て黄白色粘土に至る安定した状況を見せている（第3図 柱状図参照）。南側は、旧河道によって段丘状に開削されており、黄白色粘土が流失し、砂層が露出しているトレンチが観察された。

遺構は、北西部に位置する5～6及び64～68トレンチにおいて、溝状遺構を確認した。幅0.5～0.6m程度を測るが、一定していない。深さは0.2m程である。弓なりに蛇行しながら南北に縦断すると考えられ、覆土は暗褐色粘土を主体とする。遺物は64トレンチより土師器埴2・3高杯4・5などが出土している。他に底部回転糸切り離しの土師器杯9などが出土しているが混入であろう。古墳時代中期に比定されるか。

他の図示できる遺物は、龍泉窯の青磁碗片19をはじめ、丸瓦片23～27及び平瓦片28～37などが出土している。平瓦片10点中、7点が格子目叩き痕を有している。二日市場廃寺関連の瓦であろう。



第10図 H・K地点

第6節 I・J地点

I地点

I地点は、本遺跡群の南側にあり、国道297号が縦貫する養老川の自然堤防を分断するように養老川旧河道が北東に激しく曲流する右岸約300mに位置する。標高は19～21m程度を測る。旧河道水田面との比高差は8 m程である。また、南側から西側にかけての隣接部は土宇から延びる段丘下より発し、養老川旧河道に流れ込む支流跡があったことが空中写真より確認され、滞水の影響を絶えず受けていたことが想定された。

調査トレンチにおける遺構確認面までの深さは40～100cmである。表土下の灰色粘土より、黒色分解質泥炭土が1 m以上の層厚で堆積し、青灰色シルト質粘土に至る状況が観察され、南側支流跡の影響を強く受けた湿地的な状況が窺える。

図示できる遺物は、カワラケの可能性のある杯1のみである。

J地点

J地点は、本遺跡群の南側に位置し、東側は松崎の台地や、土宇の台地から延びる段丘に面する。松崎の台地上には松崎中里遺跡が存在し、本地点から東へ200～300m程にある段丘には小規模な円墳が群集する春日神社古墳群や、折戸古墳及び松崎の場合古墳群が展開している。ちなみに、春日神社古墳群からは円筒埴輪が出土している。一方、南側隣接部は土宇から延びる段丘下より発し、養老川旧河道に流れ込む支流跡があったことが空中写真より確認され、流水の影響を絶えず受けていたことが想定された。

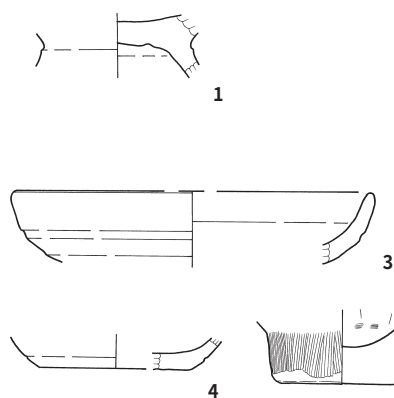
調査トレンチにおける遺構確認面までの深さは20～80cmである。北側に行く程、層厚が薄くなる。土層断面の状況は、北側では各層厚は薄いものの、表土下に富士宝永テフラを含む灰褐色粘土が観察され、以下黒灰色粘土、黒色粘土を経て灰白色粘土質シルトに至る安定した状況を見せているが、支流跡に面する南側については、表土下の灰色粘土より、黒色分解質泥炭土が1 m以上の層厚で堆積しており、青灰色シルト質粘土及び青灰色砂に至る状況が観察され、流水の影響を強く受けた状況が窺える。

遺構は、現養老小学校に隣接する北側に位置する54～55トレンチ及び100トレンチにおいて、古墳の周溝を確認した。幅2.2～2.7m程度を測り、深さは0.4～0.5m程である。円墳と考えられ、覆土は黒色粘質土を主体としていた。遺物は54トレンチ周溝内より須恵器蓋6などが出土している。TK43型式期の所産と考えられるが、胎土に黒色粒が均等に混入しており、色調が灰白色を呈することから、陶邑とは違う窯で焼かれた製品の可能性があるのかもしれない。

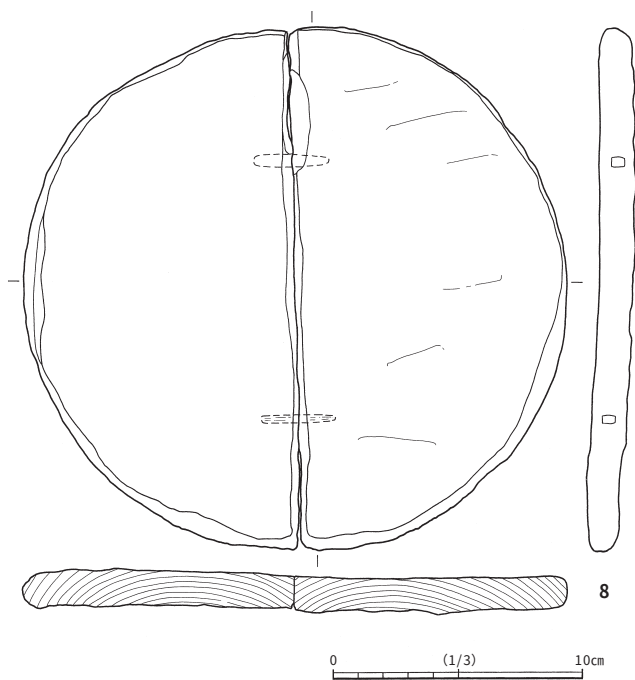
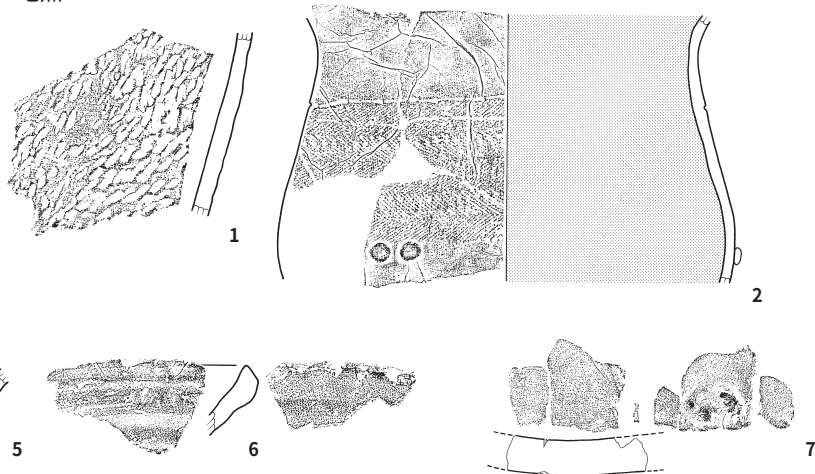
他の図示できる遺物は、東側段丘下に位置する39トレンチから土師器埴1が出土している。外面及び口縁部内面に赤彩を施している。また、同じく段丘下の35トレンチ付近より陶硯10が出土している。須恵質を呈し、二面式の風字硯である。朱墨等の残存は認められなかった。



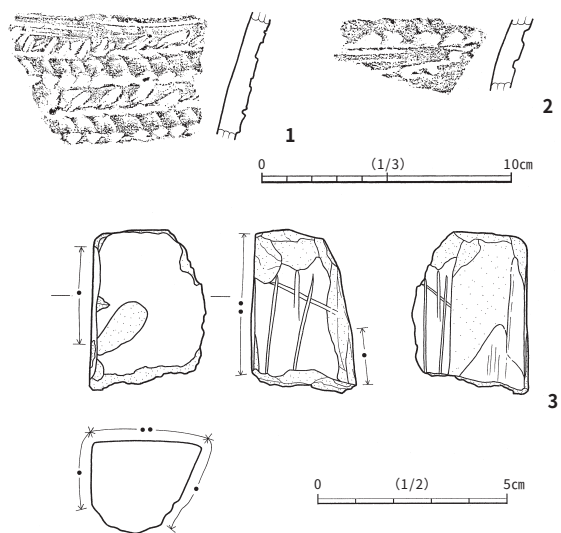
A 地点



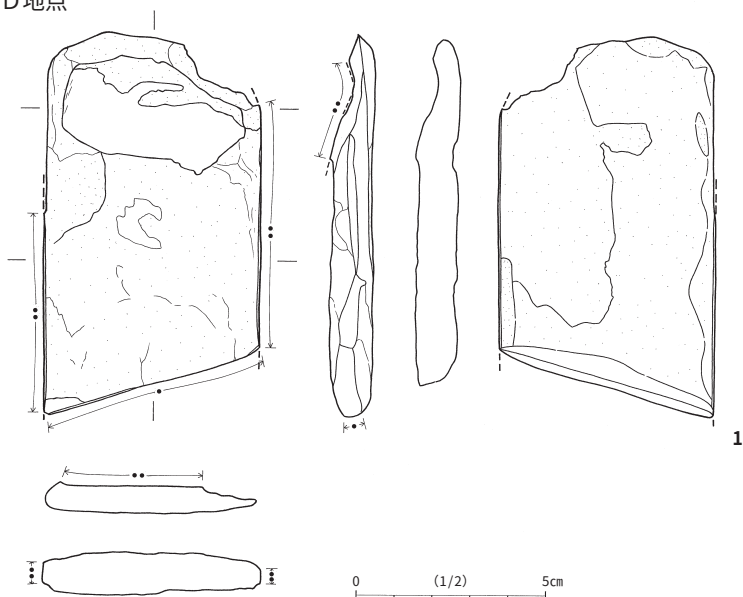
B 地点



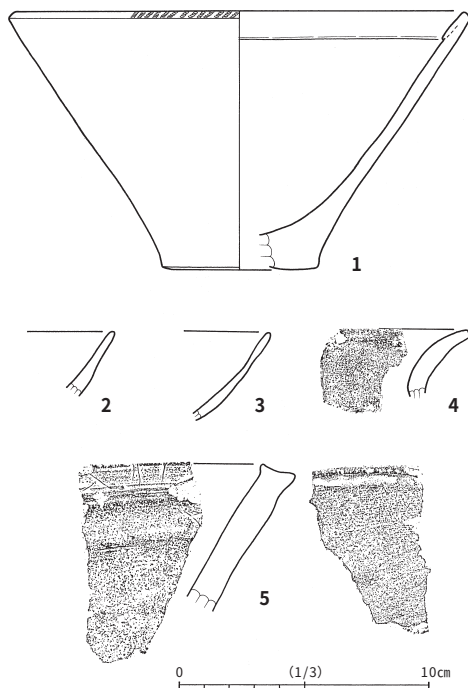
C 地点



D 地点



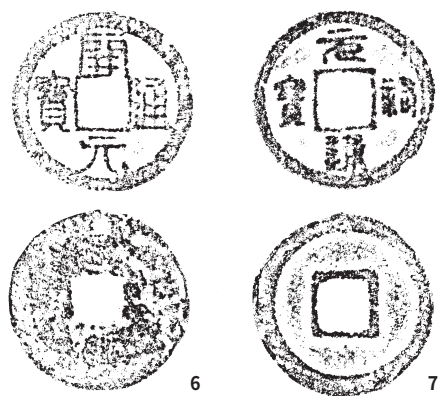
E 地点



第12图 出土遺物 (1)

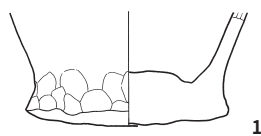
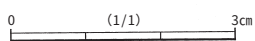
E 地点

F 地点

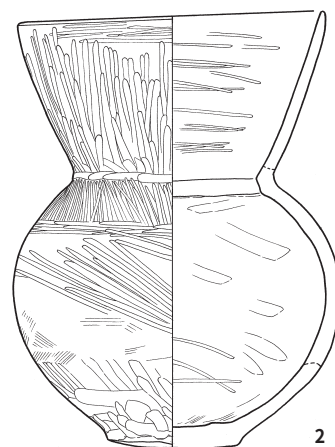
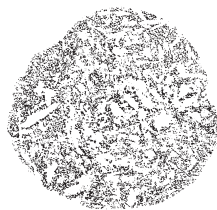


6

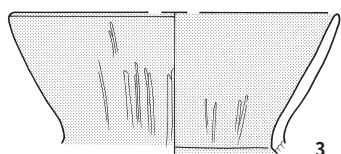
7



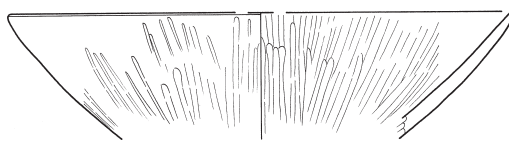
1



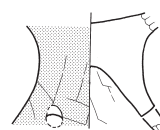
2



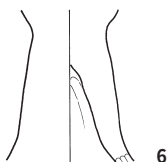
3



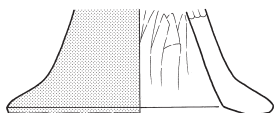
4



5



6



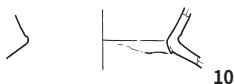
7



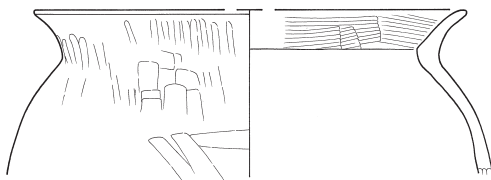
8



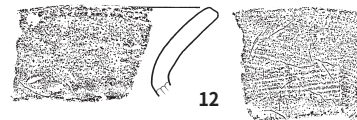
9



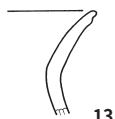
10



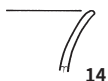
11



12



13



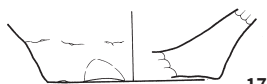
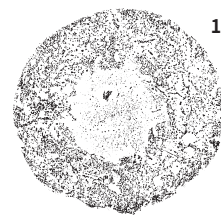
14



15



16



18



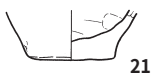
19



20



21



22



23



24



25



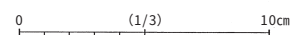
26



27

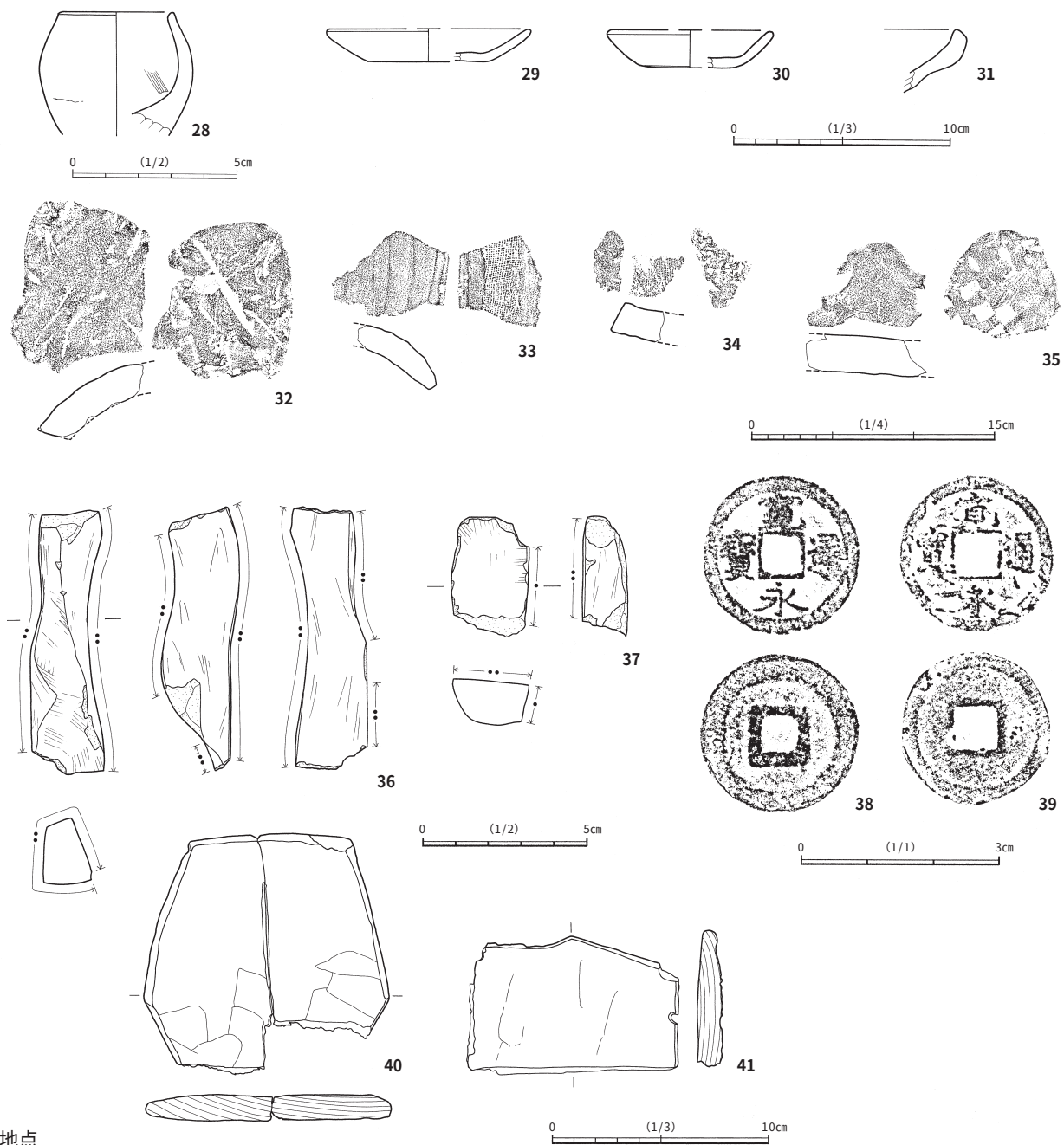


28

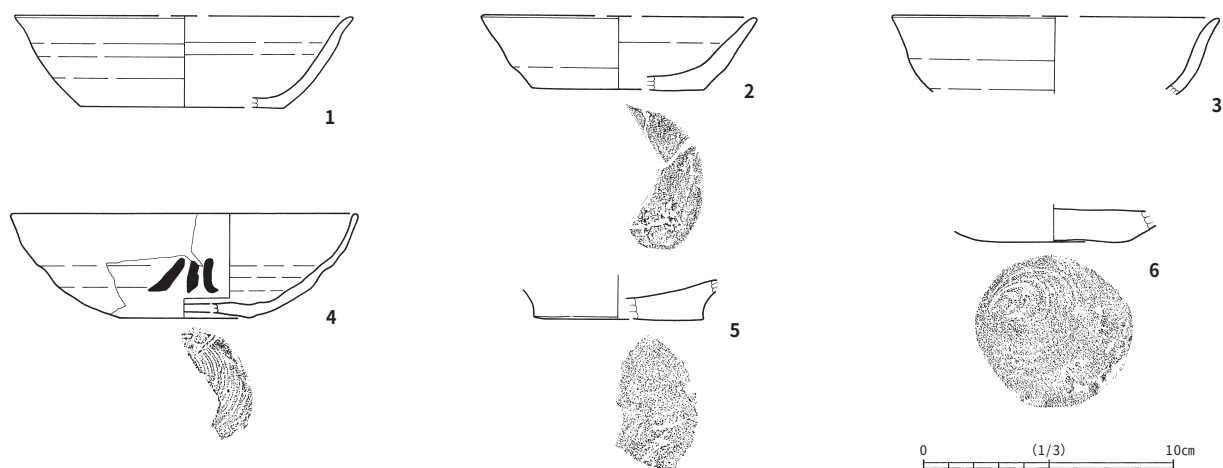


第13圖 出土遺物 (2)

F 地点

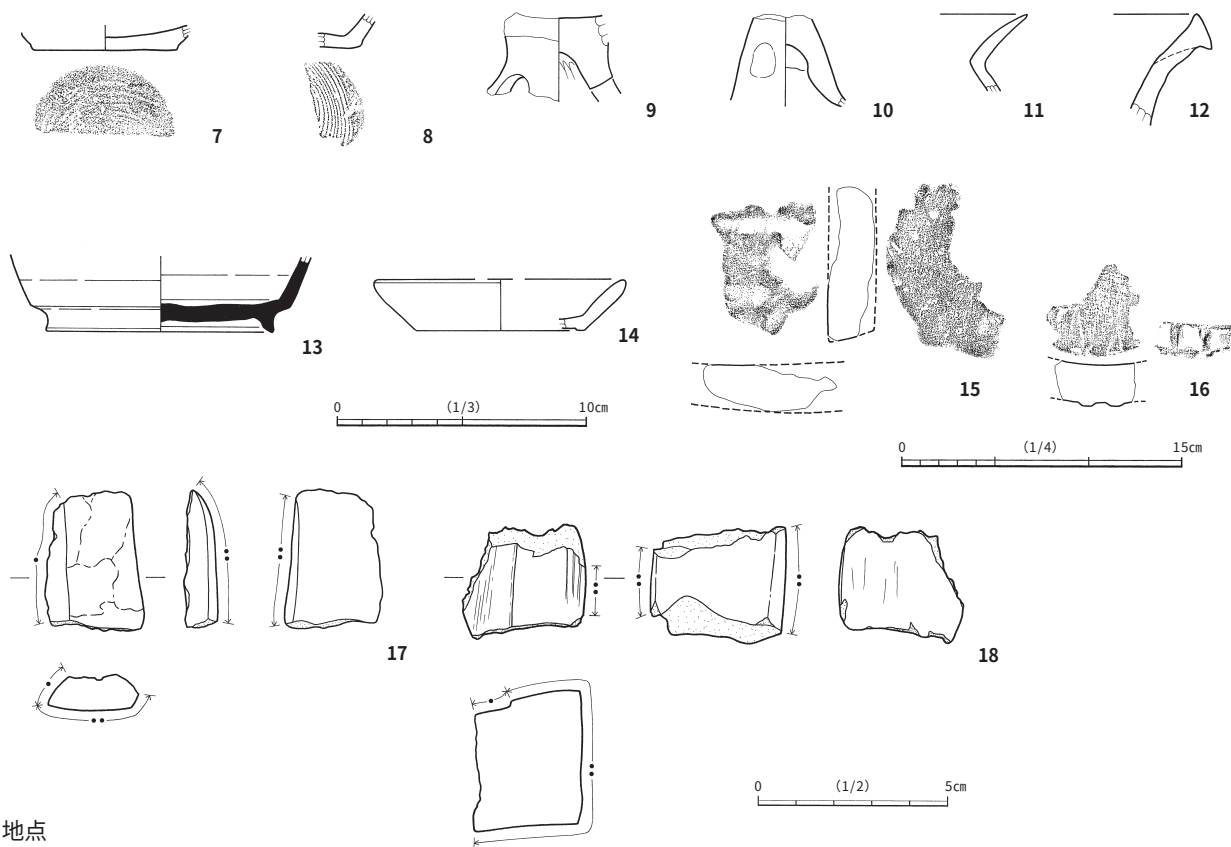


G 地点

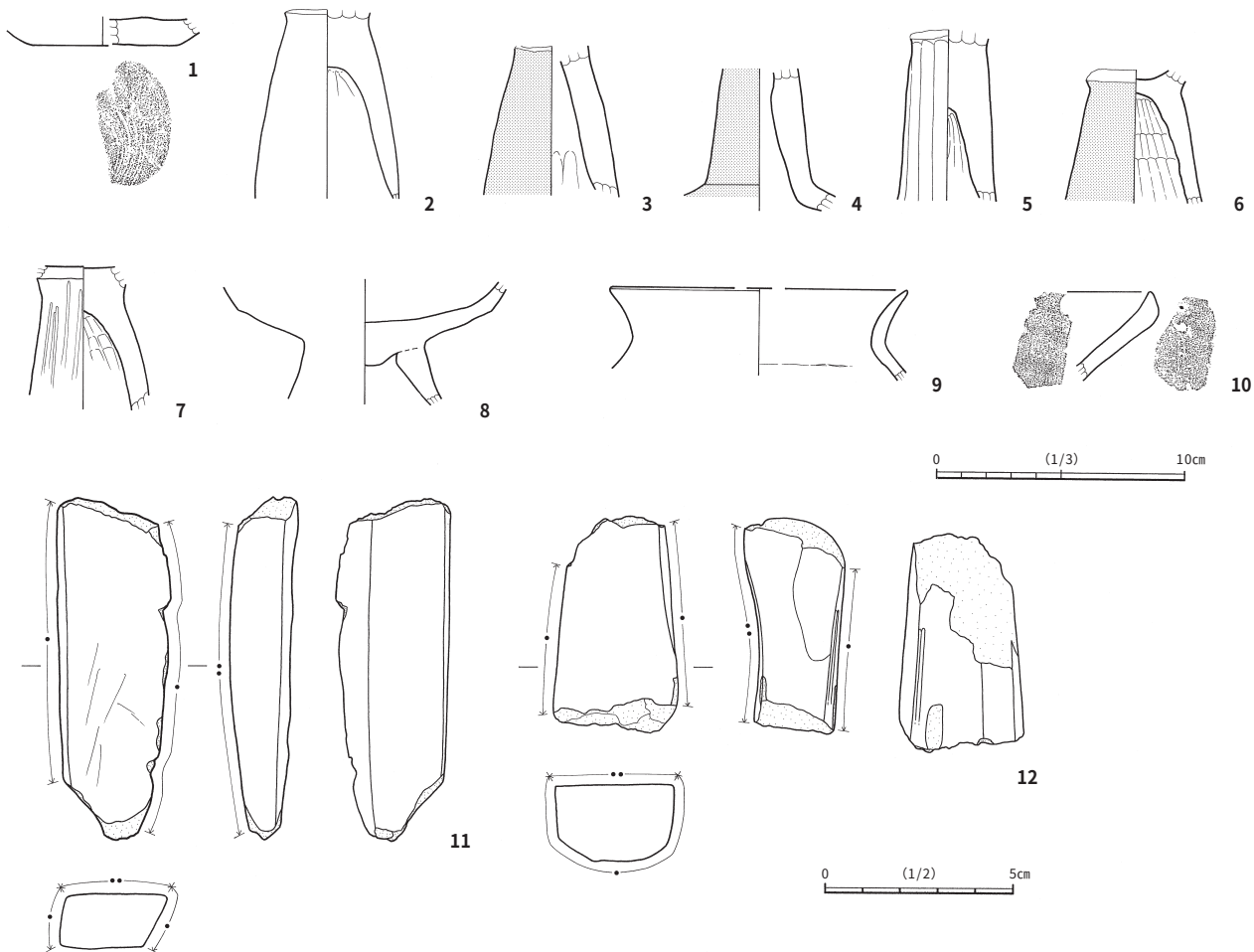


第14图 出土遺物 (3)

G地点



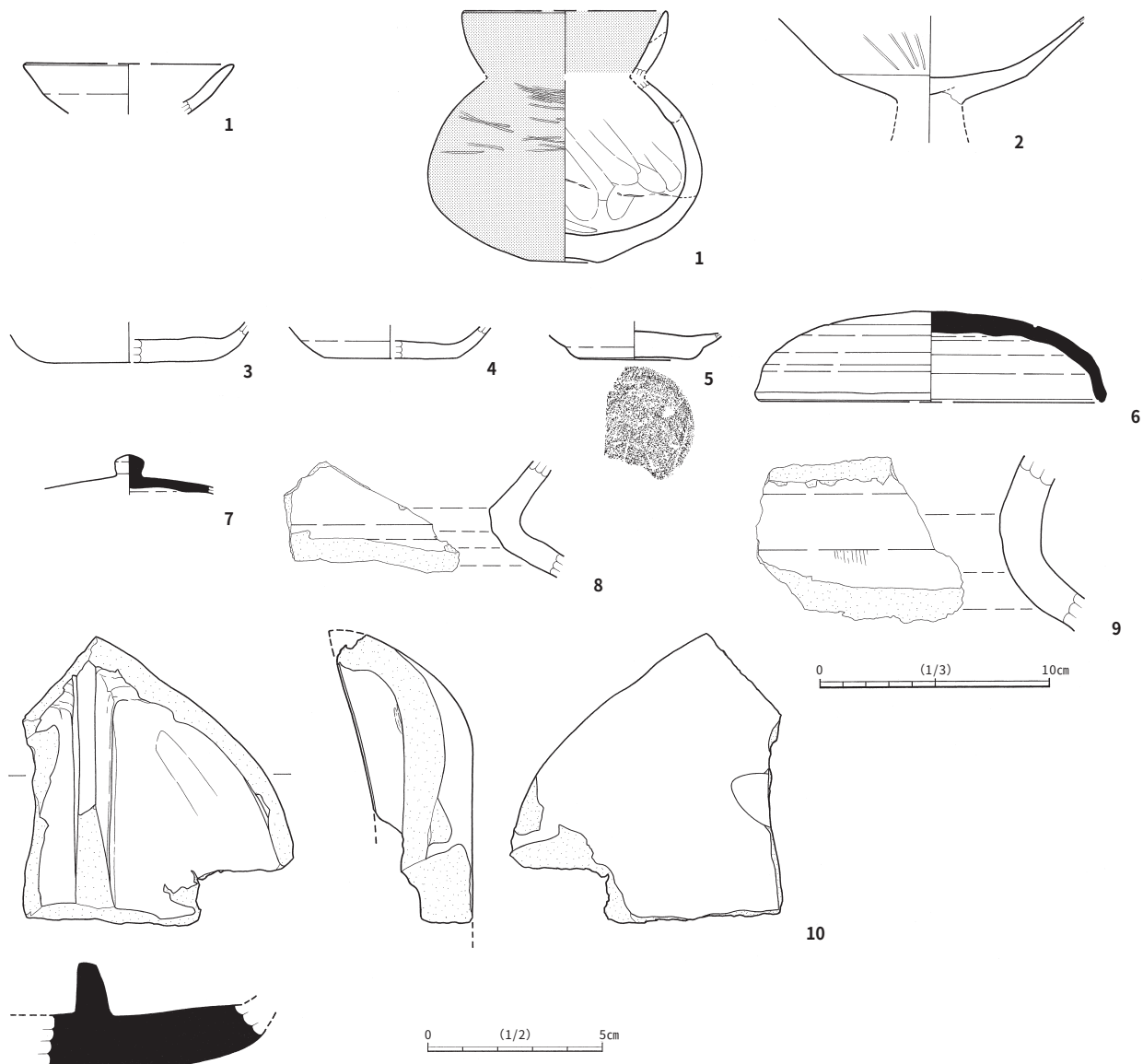
H地点



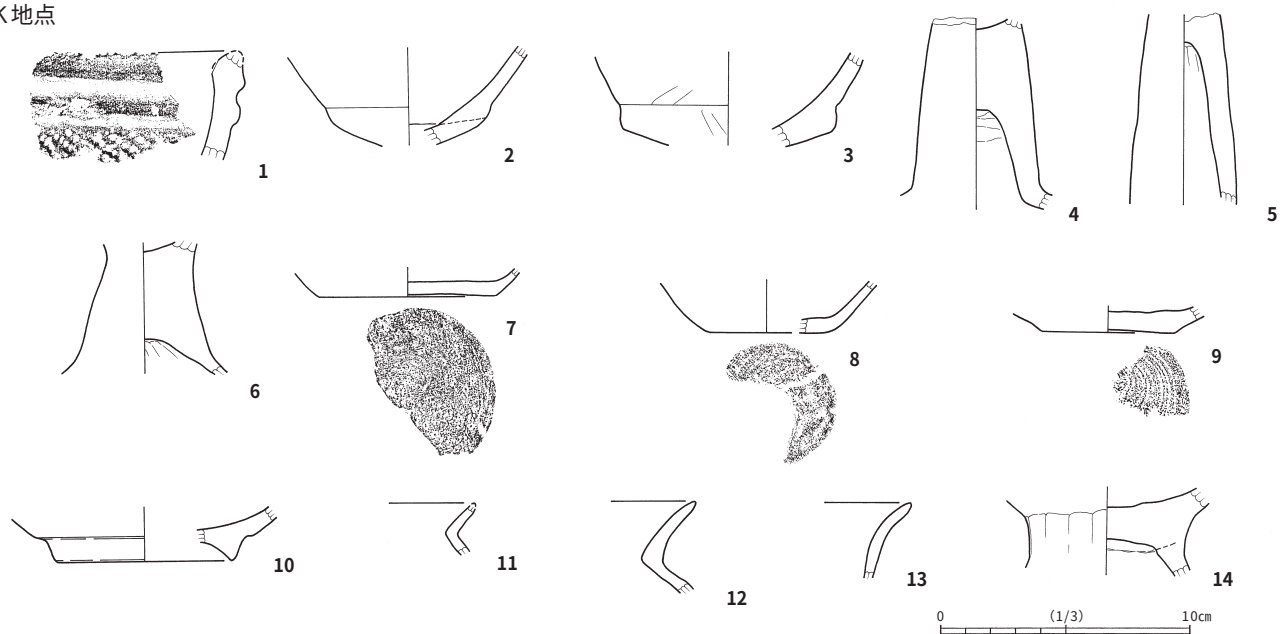
第15图 出土遺物 (4)

I 地点

J 地点

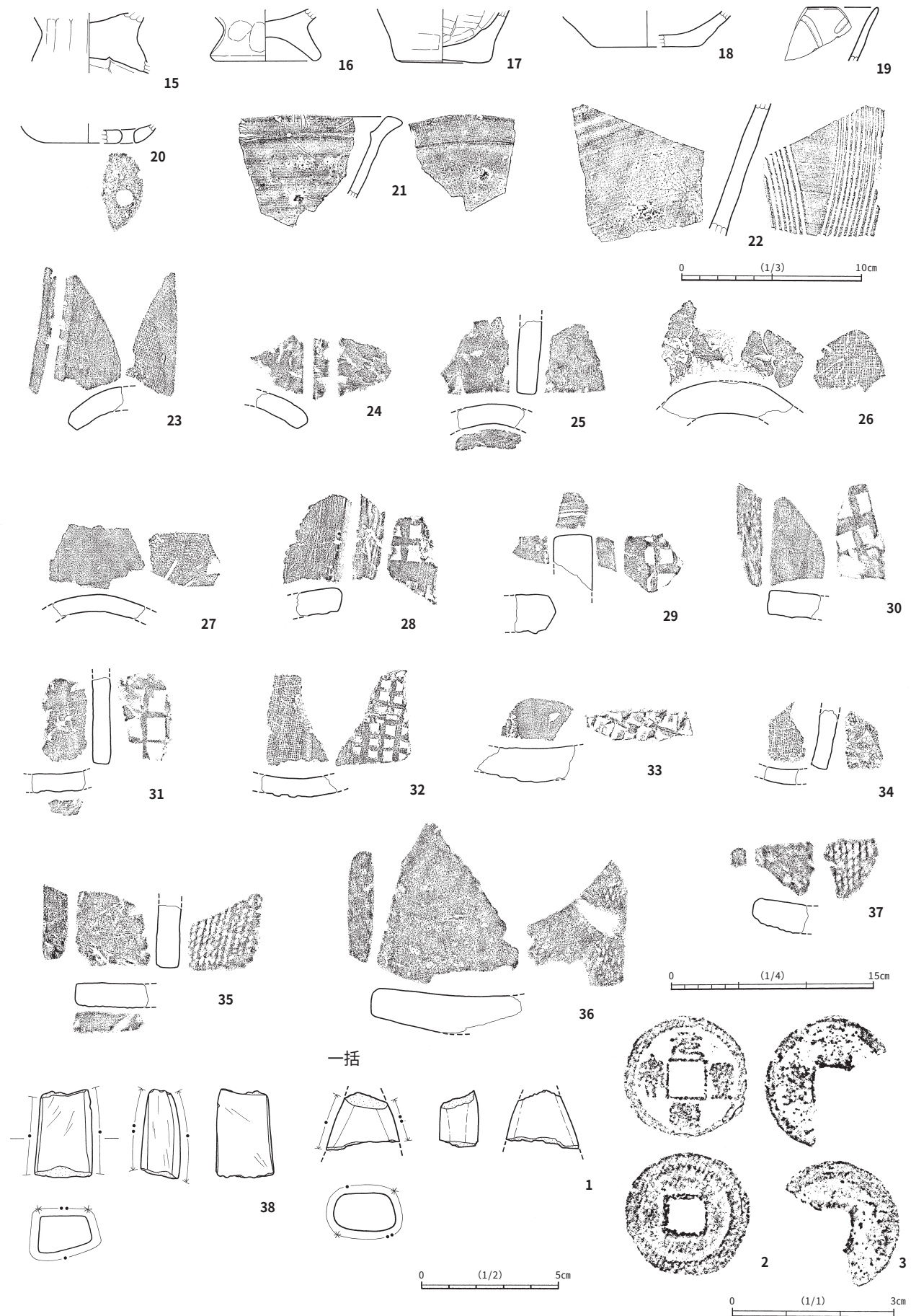


K 地点



第16图 出土遺物 (5)

K 地点



第17图 出土遺物 (6)

第3章 本調査（J地点）の成果

第1節 土坑跡

概要

調査によって検出された土坑跡は、2基ある。1基は調査区北東隅部にあり、深度が浅く、平面規模は不整な楕円形を呈する。もう1基は中央部南端に位置し、断面は掘り鉢状を呈する。

001号跡

位置 調査区の北東端部に位置する。

形態 不整な楕円形を呈し、平面規模は10.0×6.0m、深さ0.3m程度を測る。

構造 掘り込みの深度は浅く、底面付近がかろうじて残存している状態である。遺構確認時に周囲の地山である灰白色粘土質シルトとは状況が異なる暗灰色粘土が堆積していた。遺物は、遺構内北側を中心に弥生時代後期甕口縁部1や、須恵器蓋2・3が出土している。2は003号跡周溝内遺物と同様にTK43型式期の所産と考えられるが、胎土に黒色粒が混入しており、色調が灰白色を呈するなど陶器の製品とは異なる印象を受ける。いずれの遺物も混入の可能性がある。遺構とすれば、園池の可能性はあるか。

002号跡

位置 調査区の中央部南端に位置する。

形態 不整な円形を呈し、平面規模は2.7×2.4m、深さ0.6m程度を測る。

構造 断面観察から、掘り鉢状の掘り込みを呈していたと考えられる。覆土は、灰色砂及び灰色粘土を主体とする。遺物は覆土中層より灰釉陶器壺底部片1が出土している。他には、底部回転糸切り離しのカラケ2が出土している。遺構としたが、覆土は灰色砂及び灰色粘土を中心としており、近世期まで下る可能性がある。

第2節 古墳

概要

調査によって検出された古墳は、1基である。調査区中央に円墳が1基存在するが、堆積土の流失によって南から西の周溝外縁は殆ど検出されず、遺構の深度は浅い。古墳は出土遺物から6世紀後半の築造と考えられる。遺構の堆積土を覆うように東西に砂礫の流入があり、周囲は土器や埴輪片の出土が多く見られた。表土から遺構検出面までの堆積が浅く、東西に砂礫の堆積が帯（流路）状に見られることから、洪水等による水流の影響によって堆積土が流失するとともに、東側の松崎中里遺跡を乗せる台地からの洪水堆積土砂の流入が多かったものと考えられる。東側台地上に展開する松崎中里遺跡等からの流れ込み遺物が相当数あるものと考えられる。

003号跡

位置 調査区のほぼ中央に位置する。

形態 堆積土の流失により、南から西の周溝外縁は殆ど検出されず、遺構の深度は浅い。遺構確認時に、周囲の地山である灰白色粘土質シルトとは状況が異なる黒色粘土を円形に検出しており、円墳と考えられる。平面規模は周溝外径19.0～19.5m、周溝幅は2.0～3.5m、深さ40～50cm前後を測る。

構造 墳丘部は流失してしまっており、主体部は検出されなかった。周溝は、北側、東側はかろうじて残存しているが、東側は近世期と考えられる灰色砂を主体とした溝に切られている。南側及び西側は周溝の外縁が殆ど流失してしまっていた。底面の掘り方は一定していない。覆土は灰色砂を含む黒色粘土を主体とする。下層は灰色砂の混入が顕著であった。周溝内に一部、土坑状の落ち込みが見られたが、明瞭な埋葬施設等の周溝内土坑は検出されなかった。周溝を覆うように東西に砂礫の堆積が帯（流路）状に横断しており、その中に遺物が多量に包含されていたことから、東側の台地上にある松崎中里遺跡等からの洪水堆積砂と考えられる。埴輪片も、砂礫内や周囲より多量に出土しており、台地上の古墳からの流入が少なからず存在しているものと考えられる。

出土遺物は、北側周溝内より土師器杯4や須恵器蓋18、杯21～23などが出土している。須恵器蓋18及び杯21～23は、その形態からTK43型式期の所産と考えられるが、胎土に黒色粒を包含し、色調が灰白色を呈する等、陶器の製品とは異なる印象を受ける。他には南側より須恵器杯25・26、西側より須恵器杯28などが出土しているが、混入であろう。

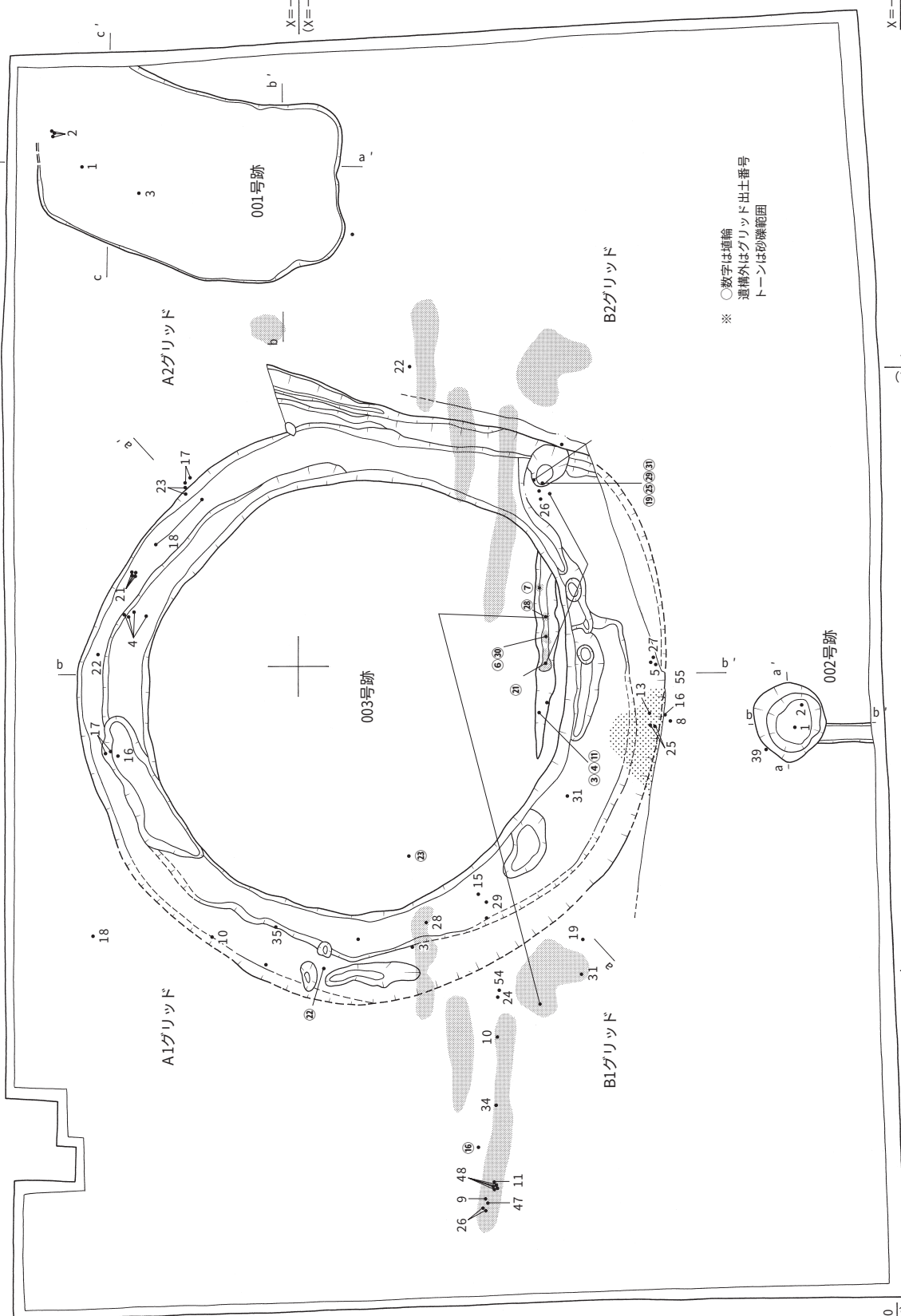
第3節 グリッド出土遺物

概要

本調査区は、東側松崎の台地から流入した多量の洪水等による流水によって、堆積層が流失するとともに、流入砂によって古墳の周溝が覆われていた。流入砂には、土器や埴輪片などの遺物が多量に包含されており、周囲にも多数遺物が散乱していた。東側台地上に展開する松崎中里遺跡等からの流入遺物が多数存在していると考えられる。周溝内から出土しなかった遺物を、グリッド出土として掲載する。

南西側B1グリッドから、円面硯片54が出土した。須恵質を呈し、硯面縁辺の海部のみ残存する。透脚式である。周溝南側より出土した55は、紡錘車であろう。土製であり、上面中央部に回転糸切り離し痕跡を持つ。土器製作時の底部粘土柱を用いて製作したのであろうか。周囲はユビナデを施し、中央やや下方に径7mm程度の焼成前穿孔を施す。下面はヘラ切り痕跡を持ち、周囲はユビナデを施す。

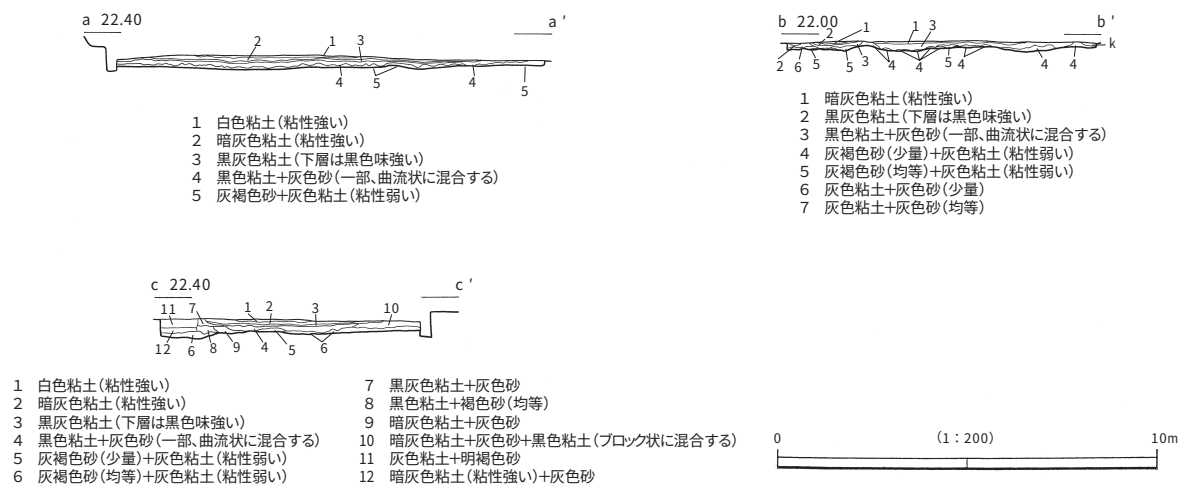
円筒埴輪は外面がタテハケのみで、ヨコハケ等の二次調整は行われぬ。内面は、ハケを省略しユビナデ等のナデ調整を行うものが多い。明瞭な黒斑は見られず、いずれも窯で焼成されたと考えられる。凸帯の形態は多様だが、は凸帯下部にハケメが残存し、ハケ調整後の凸帯貼付を傍証する。底部は板押圧後、内面ヘラケズリを行うものを行わないものがある。B2グリッドは底部に松葉・植物茎状圧痕が付着する。は丁寧なナデ調整が行われており、形象埴輪の一部か。



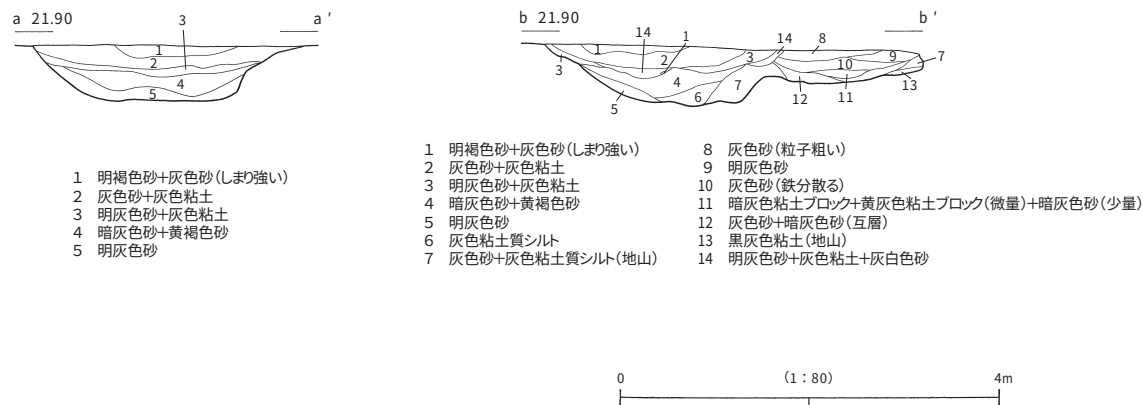
※ ○数字は遺輪
遺構外はグリッド出土番号
トーンは砂礫範囲

第18図 本調査（J地点）平面図

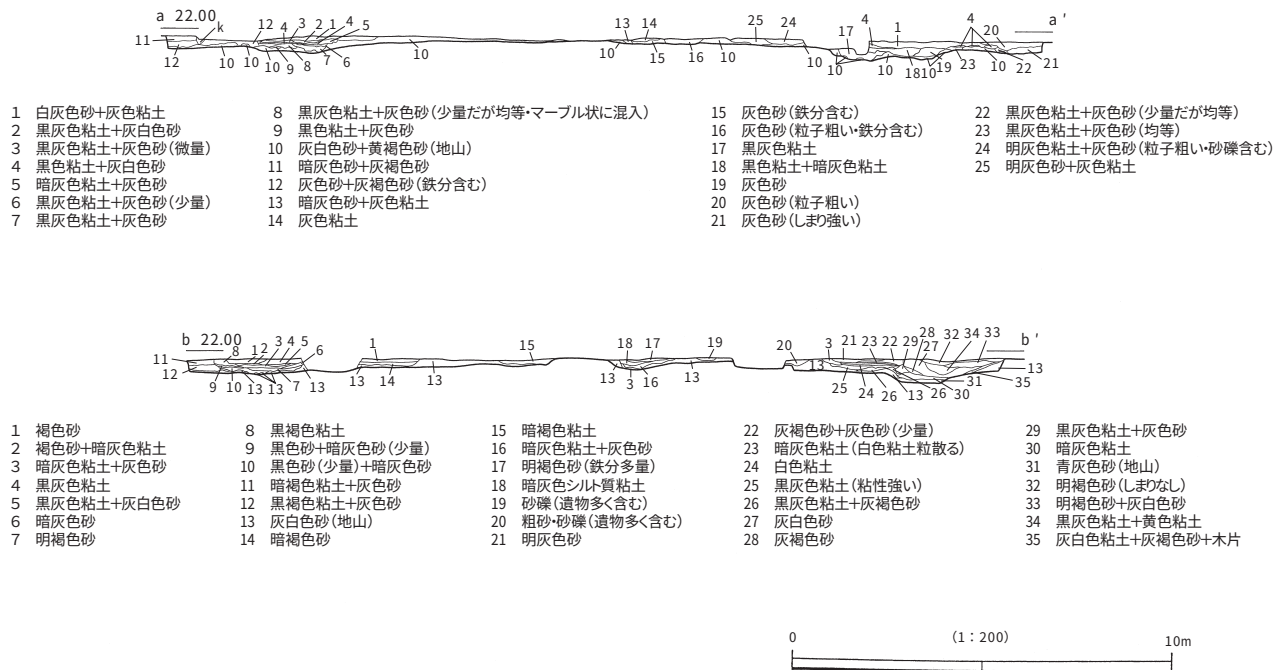
001号跡



002号跡

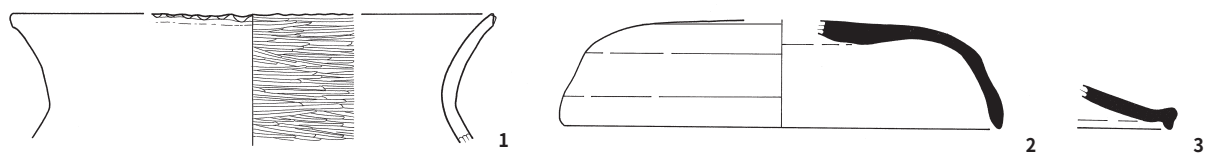


003号跡

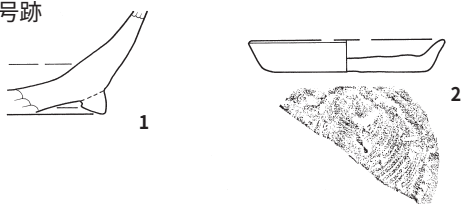


第19図 断面図

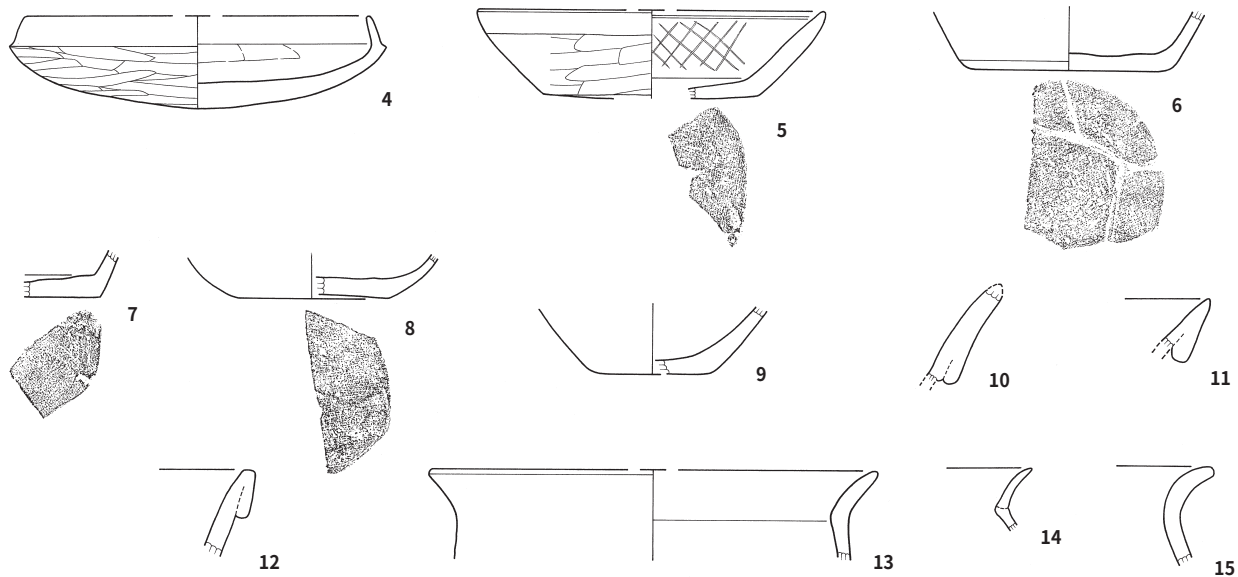
001号跡



002号跡



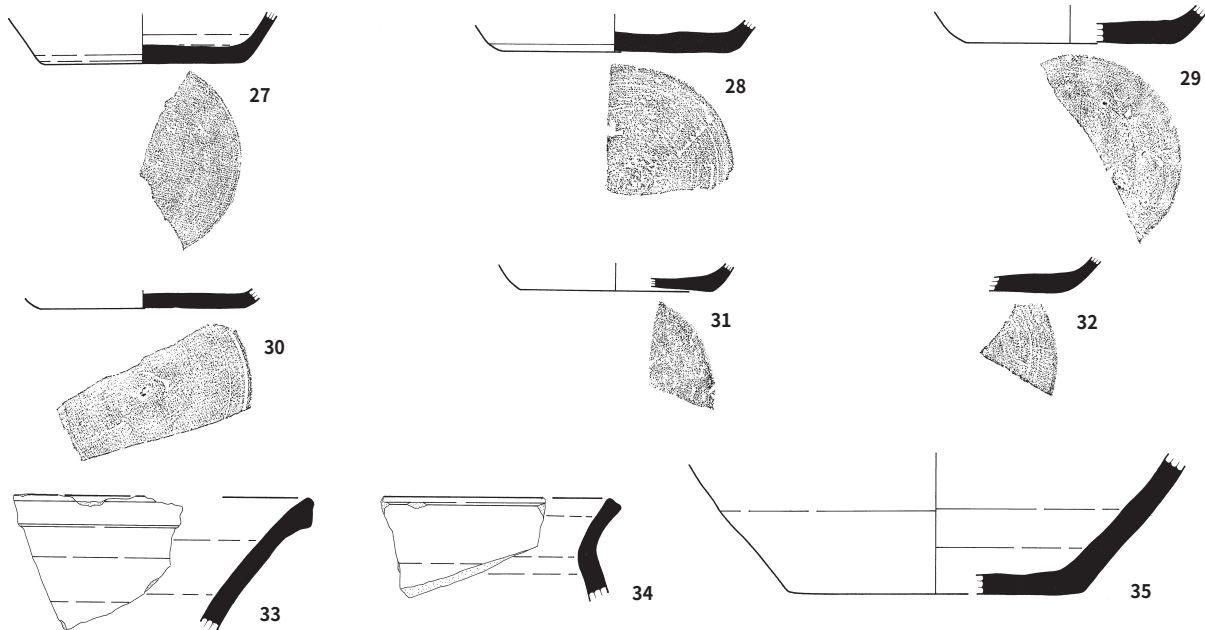
003号跡



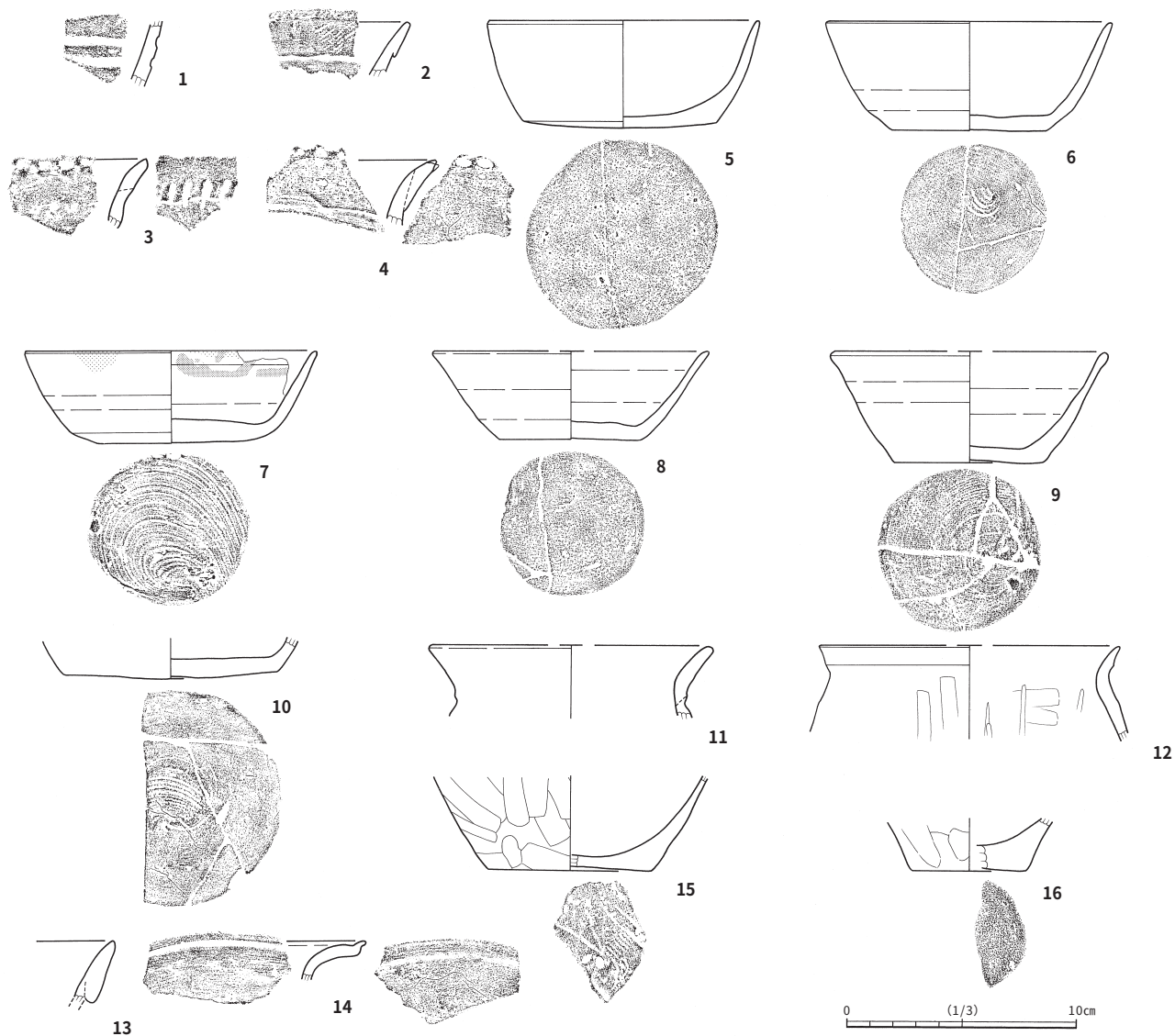
0 (1/3) 10cm

第20図 出土遺物 (7)

003号跡

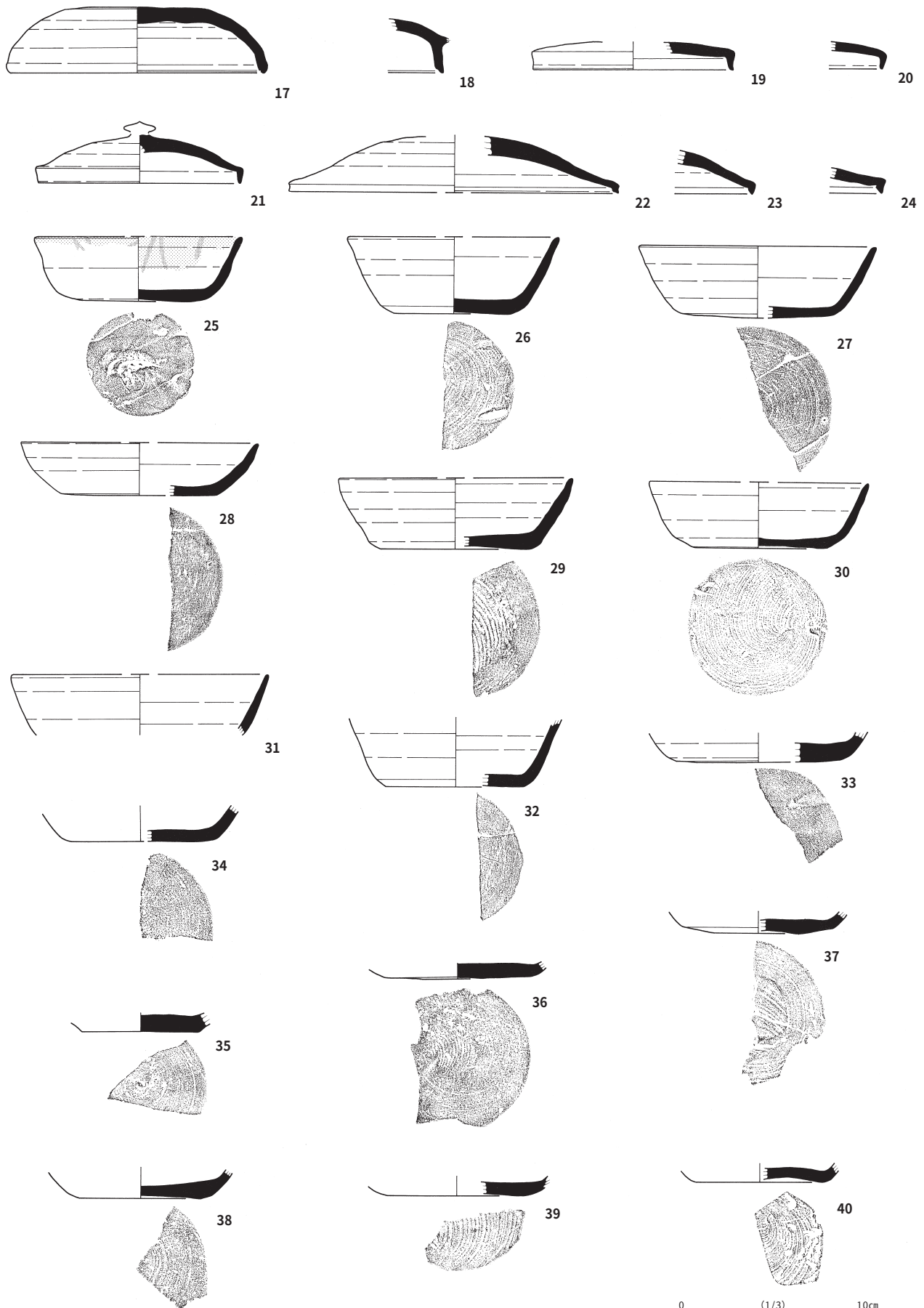


グリッド



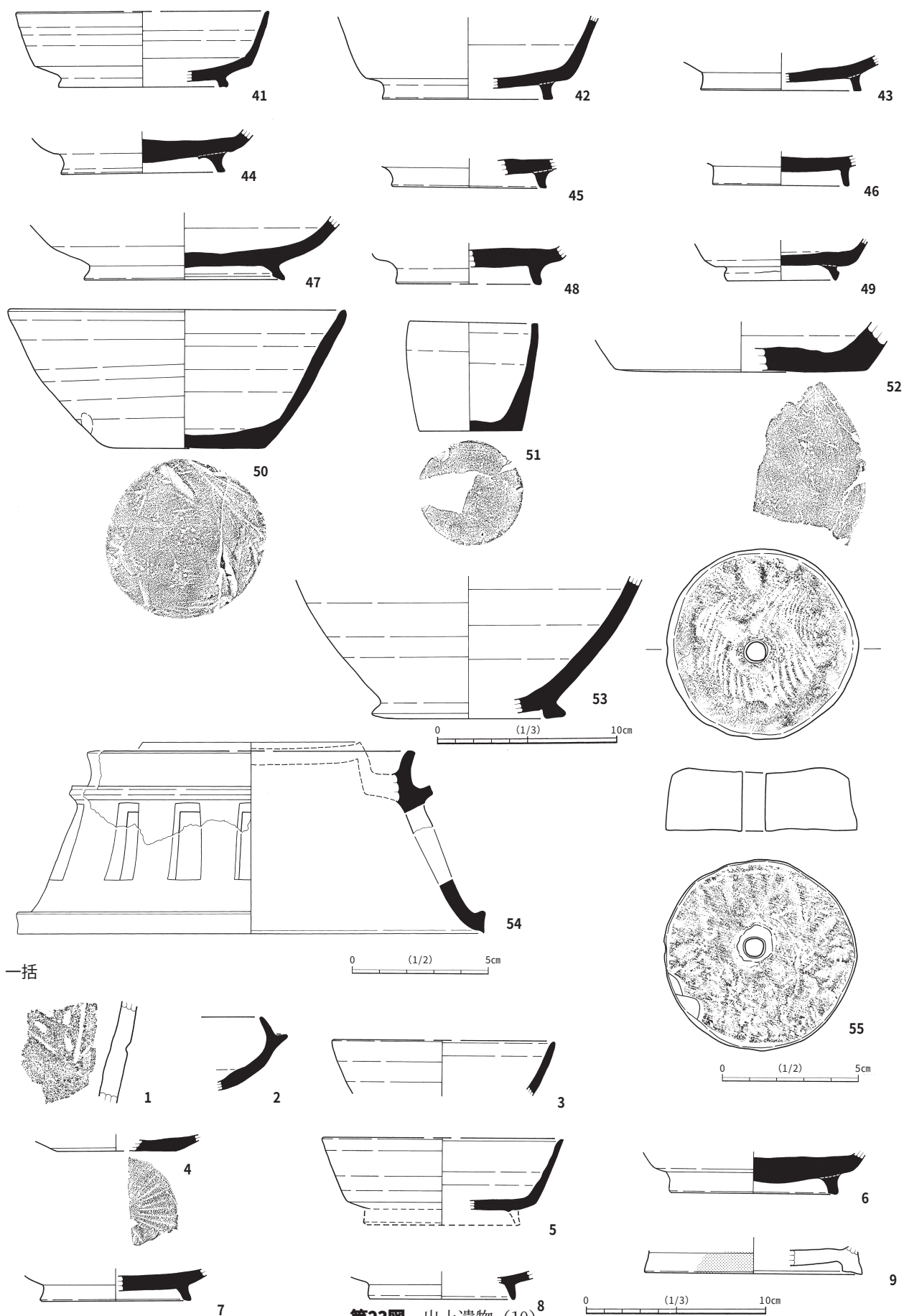
第21図 出土遺物（8）

グリッド



第22図 出土遺物（9）

グリッド



第23図 出土遺物 (10)

出土埴輪



第24図 出土遺物 (11)

出土埴輪



第25図 出土遺物 (12)

第4章 まとめ

今回は、農業基盤整備事業に伴う約70ヘクタールに及ぶ広大な調査対象範囲を、3か年の農閑期を中心に発掘調査を行ったものである。このような状況下で行われた調査事業で明らかとなった課題や問題点を上げるとともに、遺構・遺物の概要を記してまとめとしたい。

調査の結果、北側のA～D及びE地点北側については、一部に基盤層と考えられていた黄白色シルト質粘土が10cm程度の層厚で堆積していたが、その直下に分解質泥炭土である黒色粘土及びマコモ等の草本未分解泥炭土が層厚1 m以上も堆積し、上層も5 cm程度の黄白色シルト質粘土と黒色粘土及び灰色砂が互層状に堆積していた。このことは、基本的に川坪川以北の調査地点では絶えず流水・滞水の影響を受けていたことを傍証するものである。具体的には、古墳時代に一時的にはあるが中州状に安定していた可能性はあるものの、ほぼ近世期に至るまで沼地状に湿地化していた可能性が高いと考えられる。

上記の結果から判断すればA～D地点及びE地点北側と、養老川旧河道に流れ込む流路跡に隣接し、泥炭土が厚く堆積していたH・J地点南側及びI地点に設定している調査トレンチを、F・G地点に振り向けることができれば、遺構が確認されたF75トレンチ及びG105・166トレンチ周囲の安定した微高地では、他の遺構を面的に捕捉することが可能だったかもしれない。

次に遺構の概要について述べる。北側B地点や南側F地点等において、弥生時代後期や古墳時代の遺物を含む溝状の流路が東側松崎の台地から養老川に向かって東西に流れている。度々あった洪水等氾濫水の排水路としての流路が、近世期に至るまで幾条も存在していたと考えられる。

F地点及びG地点北部が本遺跡群中最も、安定した陸地である。その中で、古墳時代中期の土坑や、平安時代中期における竪穴住居跡掘り方状の窪みが単発的ではあるが確認された。周囲には、他の遺構が存在した可能性が高い。また、二日市場廃寺に近いK地点では、格子目叩き痕跡を持つ平瓦片が出土した。該期の確実な遺構は確認できないが、当地点に二日市場廃寺より運ばれた瓦であると考えられる。

一方、松崎の台地から延びる段丘面に連なる養老小学校南側J地点において、古墳時代後期の円墳が検出された。この段丘裾部には折戸古墳や円筒埴輪を持つと思われる春日神社古墳群などの小規模な円墳が群集しており、J地点検出の古墳もその一角を占めるものと考えられる。古墳周溝は浅かったが、周溝内よりTK43型式期の所産と考えられる須恵器の蓋及び杯が出土した。これらの須恵器は、胎土に黒色粒が混入しており、色調が灰白色を呈することから陶邑出土の須恵器とは違う印象を受ける。ちなみに、本市の南側丘陵部に7世紀初め頃の須恵器窯である大和田窯があり、須恵器には褐色粒が混入している。底部が突出したような独特な形態をしており、「未熟な試行段階」で操業を停止した可能性が指摘されているが、大和田窯に先行する在地の須恵器窯の存在が考えられるとしたら、その関係を考えて興味深い。

また、古墳を覆うようにして、砂礫が東西に帯（流路）状に確認され、須恵器等の土器や円筒埴輪片が多数散乱していた。東側の台地上に展開する松崎中里遺跡等に存在していた遺物が、洪水氾濫土とともに本古墳周辺に流れ込んだものと考えられる。その中には、奈良・平安時代の土器とともに古代の円面硯片や、周辺で採集された二面式の風字硯等が含まれており、東側台地上に展開する松崎中里遺跡の特殊な性格を傍証するものであると考えられる。

農業基盤整備に伴う発掘調査という制約の多い事業であったが、松崎から二日市場にわたる山田遺跡群の遺構の一部が垣間見えた。今後は、農業基盤整備に伴う調査事業について、今回の問題点を活かすと共に、二日市場廃寺や松崎の台地上に展開する遺跡の歴史的景観復原に今回の成果を繋げていくことを期待する。

第1表 出土遺物観察表 (1)

※径は、復元値を含む。高さは、現存高(cm)。

地点・トレンチ	No.	種別	器種	遺存	色調	外面の特徴	内面の特徴	焼成	胎土	口径(上径)	底径(下径)	器高	最大径
A-45	1	土師器	杯	底部50%	橙色(7.5YR6/6)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	密	6.4	6.6	2.4	
B-34	1	縄文土器	深鉢	胴部片	黒褐色(7.5YR3/1)	L Rの斜縄文施す。後期製土器。	ナデ。	良	密				
B-73	2	弥生土器	壺	胴部30%	橙色(7.5YR6/6)	上部に押しき状の沈線、下部に羽状縄文、下端に円形浮文を貼り付ける。無文部赤彩。	強いヘラナデ。赤彩。	良	密	16.0	17.6	10.6	18.2
B-38	3	土師器	杯	口縁部20%	灰褐色(7.5YR4/2)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	密	14.6	10.2	3.0	
B-21	4	土師器	杯	底部20%	橙色(7.5YR7/3)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	密	8.4	6.0	1.2	
B-67	5	土師器	小型甕	底部50%	橙色(5YR6/6)	ハケメ。	ヘラナデ。	良	密	6.8	5.4	2.8	
B-76	6	陶器	鉢	口縁部片	黒褐色(10YR3/1)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	密				
B-74	7	瓦	平瓦	端部・側縁全て欠	橙色(7.5YR6/6)	凸面器面不良。一部ナデか。	凹面器面不良につき、布目痕見えず。	良	密	(横幅)7.4	(縦長)4.6	(厚さ)1.9	
B-122	8	木器	底板(桶か)	ほぼ完存		柁目縦木取りの2材を木釘によって結合。一部、刃部痕あり。材質は針葉樹、スギか。	(裏面)一部、刃部痕あり。			(横幅)21.8	(縦長)20.8	(厚さ)1.4	
C-94	1	縄文土器	深鉢	胴部片	灰褐色(7.5YR4/2)	凹型変形爪形文施す。浮島式。	ナデ。	良	密				
C-94	2	縄文土器	深鉢	胴部片	にぶい橙色(7.5YR6/4)	爪形文施す。浮島式。	ナデ。	良	密				
C-14	3	石器	砥石	上端部30%	明緑灰色(7.5GY8/1)	一部、刃物痕残る。泥岩。				(横幅)3.0	(縦長)4.2	(厚さ)2.4	重量44.8g
D-363	1	石器	硯	頭部～胴部30%	灰色(N5/0)	海部のみ残存。胴部下端面は磨耗著しい。砥石に転用か。	(裏面)残存面なし。				(縦長)9.2	(厚さ)1.2	重量84.4g
E-97	1	縄文土器	小型深鉢	口縁～底部30%	黒褐色(5YR2/1)	口縁部L Rの斜縄文施す。胴部ナデ。赤彩か。後期編之内式か。	口縁部内面に沈線状凹線巡る。ナデ。赤彩か。	良	やや粗	18.2	6.2	10.4	
E-94	2	土師器	杯	口縁部片	橙色(2.5YR6/6)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	きわめて良	密				
E-140	3	土師器	杯	口縁部片	橙色(5YR6/6)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	やや粗				
E-318	4	土師器	甕	口縁部片	明赤褐色(2.5YR5/6)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	密				
E-2	5	陶器	鉢	口縁部片	灰色(N4/0)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	緻密				
E-107	6	金属器	銭貨	完存		開元通宝。				(横幅)2.38	(縦長)2.38	(厚さ)0.09	重量1.6g
E-83	7	金属器	銭貨	完存		元祐通宝。模跡銭か。				(横幅)2.40	(縦長)2.39	(厚さ)0.12	重量2.0g
F-221	1	縄文土器	深鉢	底部80%	橙色(2.5YR6/8)	ナデ。下端ユビオサエ。	ナデ。下端ユビオサエ。	良	密	9.4	8.2	4.6	
F-75	2	土師器	埴	ほぼ完存	にぶい黄褐色(10YR7/3)	口縁部ヘラミガキ。体部斜位のハケメの後、ヘラミガキ。	口縁部横位のヘラミガキ。体部ヘラナデの後、一部ヘラミガキ。	良	密	12.2	5.2	17.2	
F-269	3	土師器	埴	口縁部30%	赤色(7.5R4/8)	ヘラミガキ。赤彩。	ヘラミガキ。赤彩。	良	密	13.2	8.9	5.6	
F-277	4	土師器	高杯	杯部30%	明赤褐色(5YR5/6)	ヘラミガキ。	ヘラミガキ。	良	密	20.2	11.0	5.0	
F-56	5	土師器	高杯	脚部50%	明赤褐色(2.5YR5/6)	ヘラナデ。ヘラミガキ。穿孔あり。赤彩。被熱受ける。	ヘラナデ。	良	密	5.2	4.2	4.6	
F-273	6	土師器	高杯	脚部30%	橙色(7.5YR7/6)	ヘラナデ。	ヘラナデ。	良	密	3.8	5.0	6.0	
F-270	7	土師器	高杯	脚部20%	赤色(10R4/8)	ヘラミガキ。赤彩。	ヘラナデ。ヘラミガキ。裾部ヨコナデ。	良	密	5.4	10.6	4.2	
F-73	8	土師器	高杯か	杯部20%	橙色(7.5YR6/6)	ヘラケズリ。	ヘラケズリ。	良	密	9.2	4.2	2.6	10.4
F-277	9	土師器	小型甕か	口縁部20%	にぶい橙色(7.5YR7/4)	ヘラナデ。	ヘラナデ。	良	密	8.2	7.2	1.6	
F-277	10	土師器	小型甕	頸部20%	にぶい赤褐色(5YR5/4)	ヘラナデ。	ヘラナデ。	良	密	7.0	7.6	2.4	
F-191	11	土師器	甕	口縁～胴部30%	にぶい橙色(7.5YR6/4)	強いヘラナデ。ヘラミガキ。	口縁部横位のハケメ。胴部ヘラナデ。	良	密	17.2	19.4	6.6	
F-74	12	土師器	甕	口縁部片	赤褐色(2.5YR4/6)	ヨコナデ。一部ハケメ残存。被熱よく受け、赤化している。	横位のハケメ。	良	やや粗				
F-208	13	土師器	甕	口縁部片	橙色(7.5YR6/6)	ヨコナデ。口唇部、沈線状の凹み巡る。	ヨコナデ。	良	密				
F-276	14	土師器	小型甕	口縁部片	にぶい赤褐色(5YR5/4)	ヨコナデ。煤付着し黒色化している。	ヨコナデ。	良	密				
F-74	15	土師器	甕	口縁部片	明赤褐色(2.5YR5/6)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	やや粗				
F-269	16	土師器	甕	底部80%	橙色(2.5YR6/8)	ヘラナデ。ヘラケズリ。底部は凹み底を呈す。畿内地方の影響受けたか。	ヘラナデ。	良	やや粗	10.8	7.8	2.2	
F-277	17	土師器	小型甕	底部30%	橙色(5YR6/6)	ヘラナデ。	ヘラナデ。	良	密	9.8	6.8	2.7	
F-276	18	土師器	甕	底部40%	明赤褐色(2.5YR5/8)	ヘラナデ。	ヘラナデ。	良	密	9.8	5.4	2.0	
F-64	19	土師器	小型甕か	底部のみ50%	にぶい黄褐色(10YR7/3)	ヘラナデ。	ヘラナデ。	良	密	7.2	5.8	1.6	
F-277	20	土師器	小型甕か	底部のみ40%	にぶい橙色(7.5YR6/4)	ヘラケズリ。	ヘラナデ。	良	密	6.6	5.2	1.6	
F-277	21	土師器	小型甕	底部ほぼ完存	にぶい橙色(7.5YR7/4)	ヘラナデ。	ヘラナデ。一部ユビオサエ。	良	密	5.2	3.4	1.9	
F-277	22	土師器	甕	胴部下半～底部20%	赤色(10R4/6)	ヘラナデ。ヘラケズリ。被熱よく受け、赤化している。	ヘラナデ。	良	密	13.2	5.4	3.6	
F-270	23	土師器	甕	底部40%	橙色(2.5YR6/8)	ヘラナデ。	ヘラナデ。	良	密	8.0	3.8	1.2	
F-276	24	土師器	甕	底部30%	赤色(10R4/8)	ヘラナデ。被熱よく受け、赤化している。煤付着。	ヘラナデ。	良	密	11.6	3.6	4.6	
F-64	25	土師器	小型甕	底部30%	橙色(7.5YR6/6)	ヘラナデ。	やや強いヘラナデ。	やや不良	粗	7.2	3.2	1.6	
F-277	26	土師器	甕	底部30%	橙色(2.5YR6/6)	ヘラナデ。	ヘラナデ。煤付着し、黒色化。	良	密	9.6	5.8	1.9	
F-73	27	土師器	甕	底部40%	橙色(7.5YR6/6)	ヘラナデ。	ヘラナデ。	不良	やや粗	9.2	7.0	1.6	
F-277	28	土師器	ミチア土器	口縁～体部下半30%	にぶい黄褐色(10YR6/4)	ナデ。	ナデ。一部ハケメ。	良	密	3.5	3.2	3.8	4.7
F-2	29	カワラケ	皿	口縁～底部20%	橙色(7.5YR6/6)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	やや不良	密	9.4	5.4	1.6	
F-207	30	カワラケ	皿	口縁～底部40%	にぶい黄褐色(10YR6/4)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	密	7.6	4.0	1.8	
F-281	31	陶器	鉢	口縁部片	暗赤褐色(10R3/2)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	緻密				
F-47	32	瓦	丸瓦	丸瓦	左側縁部やや残、他は欠	凸面ヘラナデ。	凹面器面不良、一部布目痕残る。	良	密	(横幅)6.3	(縦長)10.0	(厚さ)2.2	
F-2	33	瓦	丸瓦	丸瓦	右側縁部やや残、他は欠	凸面縦位のヘラナデ。側縁部ヘラケズリ。	凹面布目痕。	良	密	(横幅)5.6	(縦長)5.2	(厚さ)1.4	
F-269	34	瓦	平瓦	平瓦	左側縁部やや残、他は欠	凸面器面不良。叩打痕見えず。	凹面布目痕。	良	密	(横幅)2.8	(縦長)3.4	(厚さ)1.8	
F-207	35	瓦	平瓦	端部・側縁全て欠	灰白色(10YR8/2)	凸面格子目叩き痕。	凹面器面不良につき、布目痕見えず。	良	密	(横幅)7.2	(縦長)4.8	(厚さ)2.2	
F-272	36	石器	砥石	両端部欠失	灰白色(2.5GY8/1)	両側面磨耗痕著しい。一部擦痕残る。泥岩。				(横幅)1.4	(縦長)8.0	(厚さ)1.9	重量41.3g
F-272	37	石器	砥石	上端部40%	灰黄色(2.5Y7/2)	一部擦痕残る。泥岩。				(横幅)2.3	(縦長)3.5	(厚さ)1.3	重量15.9g
F-177	38	金属器	銭貨	完存		寛永通宝。古寛永か。				(横幅)2.48	(縦長)2.45	(厚さ)0.13	重量3.2g
F-49	39	金属器	銭貨	完存		寛永通宝。				(横幅)2.38	(縦長)2.39	(厚さ)0.08	重量2.1g
F-243	40	木器	加工板	下半部欠失		柁目縦木取り。側面は、平滑に仕上げられている。一部ケズリ痕あり。材質は針葉樹、スギか。	(裏面)一部ケズリ痕あり。			(横幅)11.2	(縦長)11.0	(厚さ)1.2	
F-243	41	木器	加工板	左・下半部欠失		柁目縦木取り。一部ケズリ痕あり。材質は針葉樹、スギか。	(裏面)一部ケズリ痕あり。			(横幅)9.6	(縦長)6.2	(厚さ)1.2	
G-105	1	土師器	杯	口縁～底部20%	にぶい黄褐色(10YR7/3)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	密	13.4	8.0	3.6	
G-166	2	土師器	杯	口縁～底部40%	にぶい黄褐色(10YR7/3)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	密	10.8	6.8	2.9	
G-166	3	土師器	杯	口縁部20%	明赤褐色(2.5YR5/6)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	密	13.2	9.8	3.0	
G-166	4	土師器	杯	口縁～底部40%	にぶい橙色(7.5YR6/4)	ロクロ調整。側面に墨書あり(則天文字「天」か。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	良	密	13.8	5.0	4.2	
G-138	5	土師器	杯	底部40%	にぶい黄褐色(10YR7/4)	器面不明瞭。甕の可能性あり。	器面不明瞭。	良	粗	7.6	6.8	1.8	
G-125	6	土師器	杯	底部80%	橙色(5YR6/6)	底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	良	やや粗	8.4	5.8	1.4	
G-128	7	土師器	杯	底部40%	にぶい黄褐色(10YR7/3)	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	良	密	6.6	5.8	0.9	
G-166	8	土師器	杯	底部片	橙色(5YR6/6)	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	良	密				
G-118	9	土師器	高杯	杯部下半～脚部80%	にぶい橙色(7.5YR7/4)	ヘラナデ。ヘラミガキ。脚部に焼成前穿孔施す。現存する透かし孔は2ヶ所であるが、その間隔から3ヶ所あったと思われる。	ヘラナデ。	良	密	4.0	5.2	3.4	
G-126	10	土師器	高杯	脚部のみ30%	にぶい黄褐色(10YR7/4)	器面不明瞭。ヘラナデ。指頭痕状の凹みあり。	ヘラナデ。	良	密	2.4	4.6	3.6	

第2表 出土遺物観察表 (2)

※径は、復元値を含む。高さは、現存高(cm)。

地点・トレンチ	No.	種別	器種	遺存	色調	外面の特徴	内面の特徴	焼成	胎土	口径 (上径)	底径 (下径)	器高	最大径
G-156	11	土師器	甕	口縁部片	橙色(5YR6/6)	縦位のハケメ。	ヨコナデ。頸部横位のハケメ残る。	良	密				
G-134	12	灰釉陶器	長頸壺	口縁部片	灰白色(2.5Y7/1)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	緻密				
G-11	13	須恵器	杯	底部30%	灰白色(5Y7/1)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	緻密	12.0	9.2	3.0	
G-76	14	陶器	皿	口縁～底部20%	褐色(7.5YR4/4)	底部、削り出し高台。全面施釉。	全面施釉。	良	緻密	10.0	6.6	2.0	
G-129	15	瓦	平瓦	端部・側縁殆ど欠	橙色(7.5YR6/6)	凸面器面不良。叩打痕見えず。	凹面器面不良につき、布目痕殆ど見えず。	良	密	(横幅)7.8	(縦長)8.6	(厚さ)2.4	
G-138	16	瓦	平瓦	端部・側縁全て欠	黄灰色(2.5Y6/1)	凸面格子目叩き痕。	凹面布目痕。	良	密	(横幅)4.2	(縦長)4.8	(厚さ)2.2	
G-397	17	石器	砥石	端部のみ残	灰白色(10YR8/1)	側面、磨耗痕著しい。泥岩。				(横幅)2.2	(縦長)3.7	(厚さ)0.9	重量11.2g
G-138	18	石器	砥石	両端部欠失	淡黄色(2.5Y8/3)	一部、擦痕残る。泥岩。				(横幅)3.3	(縦長)2.7	(厚さ)3.4	重量44.9g
H-213	1	土師器	杯	底部40%	にぶい黄褐色(10YR5/4)	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	やや不良	やや粗	7.6	5.6	1.0	
H-55	2	土師器	高杯	脚部のみ80% 裾部は欠失	浅黄褐色(10YR8/3)	器面不明瞭。ヘラミガキ。	ヘラナデ。	良	密	3.4	5.8	7.4	
H-34	3	土師器	高杯	脚部のみ30%	赤色(10R5/6)	ヘラミガキ。赤彩。	ヘラナデ。	良	密	2.9	5.6	6.0	
H-135	4	土師器	高杯	脚部のみ40%	赤色(10R5/6)	ヘラミガキ。赤彩。	ヘラナデ。	良	密	3.0	6.2	5.6	
H-22	5	土師器	高杯	脚部のみ70%	橙色(7.5YR7/6)	器面不明瞭。ヘラミガキ。	ヘラナデ。	良	密	3.2	4.0	6.8	
H-164	6	土師器	高杯	脚部のみ60%	赤色(10R5/8)	器面不明瞭。ヘラミガキ。	ヘラナデ。	良	密	4.2	5.6	5.4	
H-150	7	土師器	高杯	脚部60%	にぶい橙色(7.5YR7/4)	ヘラナデ。ヘラミガキ。	ヘラナデ。	良	密	3.6	4.9	5.8	
H-74	8	土師器	高杯	杯部下半～脚部60%	赤色(10R4/8)	器面不明瞭。ヘラケズリ。被熱よく受け、赤化。	器面不明瞭。ヘラナデ。	良	密	11.2	6.2	5.0	
H-71	9	土師器	甕	口縁のみ30%	橙色(7.5YR6/6)	ヨコナデ。	ヨコナデ。下端に輪軸み痕残る。	良	密	12.0	11.8	3.4	
H-12	10	陶器	鉢	口縁部片	暗褐色(7.5YR3/3)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	緻密				
H-54	11	石器	砥石	両端部欠失	浅黄褐色(10YR8/3)	正面、磨耗痕著しい。擦痕あり。泥岩。				(横幅)2.8	(縦長)8.6	(厚さ)1.4	重量57.2g
H-164	12	石器	砥石	両端部欠失	淡黄色(2.5Y8/3)	正面、磨耗痕著しい。側面に擦痕あり。泥岩。				(横幅)3.2	(縦長)5.8	(厚さ)2.1	重量57.8g
I-1	1	カワラケカ	杯	口縁部30%	橙色(7.5YR7/6)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	密	9.2	5.0	2.2	
J-39	1	土師器	埴	口縁～底部40%	赤色(10R4/8)	口縁～胴部上半ヘラミガキ。赤彩。	口縁部ヘラミガキ。赤彩。体部ヘラナデ。	良	やや粗	9.0	2.9	10.8	11.8
J-34	2	土師器	高杯	杯部下半60%	橙色(5YR6/6)	一部、ヘラミガキ。	器面不明瞭。ヘラナデ。	良	やや粗	13.2	2.8	3.6	
J-55	3	土師器	杯	底部30%	橙色(2.5YR6/8)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	密	10.2	7.0	1.8	
J-50	4	土師器	杯	底部40%	橙色(5YR6/8)	器面不明瞭。甕の可能性あり。	器面不明瞭。	良	密	8.6	5.6	1.4	
J-32	5	土師器	杯	底部60%	橙色(5YR7/6)	器面不明瞭。ロクロ調整。底部、判別できず。	器面不明瞭。ロクロ調整。	良	密	7.4	4.8	1.6	
J-54	6	須恵器	蓋	天井部～口縁端部40%	灰色(N6/0)	ロクロ調整。天井部は回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	1～2mm大・黒粒に均等に入る	9.0	15.0	3.8	
J-35	7	須恵器	蓋	天井部30%	灰色(N6/0)	ロクロ調整。天井部には宝珠形のつまみが付く。	ロクロ調整。	良	緻密	2.8	7.2	1.8	
J-48	8	陶器	甕	頸部片	灰色(5Y5/1)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	密				
J-53	9	陶器	甕	頸部片	灰色(5Y6/1)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	密				
J-35	10	須恵器	硯	硯首～胴部30%	黄灰色(2.5Y6/1)	風字硯。二面式。海部のみ残存。片面は朱墨か。(硯首) 器面状態不良。	ナデ。(硯首) 器面状態不良。	良	緻密	(横幅)7.8	(縦長)8.2	(厚さ)2.9	重量103.1g
K-24	1	縄文土器	深鉢	口縁部片	橙色(5YR6/8)	2条の隆帯の中にL Rの斜縄文施す。中期加曽利E式。	ナデ。	良	やや粗				
K-64	2	土師器	埴	体部上端～下半部30%	橙色(7.5YR7/6)	器面状態不良。ヘラミガキ。	器面状態不良。ヘラナデ。	良	密	9.6	2.2	3.8	
K-64	3	土師器	埴	体部上端～下半部20%	赤色(10R4/8)	被熱よく受け赤化。ヘラケズリ。	ヘラナデ。	良	密	10.6	4.6	3.6	
K-64	4	土師器	高杯	脚部のみ90% 裾部は欠失	明赤褐色(5YR5/6)	器面不明瞭。ヘラミガキ。	ヘラナデ。	やや不良	密	3.6	6.0	7.6	
K-64	5	土師器	高杯	脚部のみ80% 裾部は欠失	明赤褐色(5YR5/6)	器面不明瞭。ヘラミガキ。	ヘラナデ。	良	密	2.8	7.6	4.2	
K-1	6	土師器	高杯	脚部のみ70%	橙色(2.5YR6/6)	被熱よく受け赤化。ヘラミガキ。	ヘラナデ。	良	密	3.8	6.6	5.2	
K-32	7	土師器	杯	底部40%	にぶい橙色(5YR7/4)	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	良	密	8.8	6.9	1.1	
K-19	8	土師器	杯	体部下半～底部50%	にぶい黄褐色(10YR7/4)	器面不明瞭。ロクロ調整。底部判別できず。	器面不明瞭。ロクロ調整。	良	密	8.8	4.6	2.0	
K-64	9	土師器	杯	底部20%	橙色(5YR6/6)	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	良	やや粗	7.6	5.2	1.0	
K-64	10	土師器	杯	底部20%	橙色(7.5YR7/6)	ロクロ調整。	ロクロ調整。黒色化している。	良	密	10.4	7.0	2.1	
K-64	11	土師器	小型甕	口縁部片	橙色(7.5YR7/6)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	密				
K-51	12	土師器	甕	口縁部片	橙色(7.5YR7/6)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	密				
K-1	13	土師器	甕	口縁部片	橙色(7.5YR7/6)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	密				
K-1	14	土師器	台付甕	脚部のみ70%	橙色(2.5YR6/6)	ヘラケズリ。	ヘラナデ。	良	密	8.2	6.6	3.4	
K-1	15	土師器	台付甕	脚部のみ60%	橙色(2.5YR7/8)	ヘラケズリ。	ヘラナデ。	良	密	6.2	6.4	3.2	
K-33	16	土師器	台付甕	脚部～底部60%	橙色(5YR6/6)	ヘラケズリ。	ヘラナデ。	良	密	5.4	6.2	2.8	
K-1	17	土師器	甕	体部下半～底部60%	橙色(7.5YR6/6)	ヘラケズリ。	ヘラナデ。	良	密	7.2	5.2	2.9	
K-1	18	土師器	甕	体部下半～底部30%	橙色(2.5YR6/8)	ヘラケズリ。	ヘラナデ。	良	密	9.2	5.8	1.9	
K-1	19	青磁	碗	口縁部片	オリーブ灰色(2.5GY6/1)	施釉。蓮弁状の陰刻あり。龍泉窯。	施釉。	良	緻密				
K-36	20	カワラケ	皿	底部のみ40%	褐色(7.5YR7/6)	ロクロ調整。底部に焼成後穿孔あり。	ロクロ調整。	良	密	7.4	5.0	1.0	
K-22	21	陶器	鉢	口縁部片	極暗赤褐色(5YR2/3)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	緻密				
K-32	22	陶器	挿鉢	胴部片	暗赤褐色(5YR3/4)	ヨコナデ。	ヨコナデ。櫛歯状工具により掘り目入る。	良	緻密				
K-35	23	瓦	丸瓦	左側縁部残、他は欠	灰白色(2.5Y7/1)	凸面縦位のヘラナデ。側縁部ヘラケズリ。	凹面布目痕。	良	密	(横幅)4.8	(縦長)7.6	(厚さ)1.6	
K-2	24	瓦	丸瓦	右側縁部や残、他は欠	灰白色(2.5Y7/1)	凸面ヘラナデ。側縁部ヘラケズリ。	凹面器面状態不良。	良	密	(横幅)3.8	(縦長)4.2	(厚さ)1.4	
K-35	25	瓦	丸瓦	端部のみ残	黒褐色(5YR2/1)	凸面縦位のヘラナデ。端部ヘラケズリ。	凹面布目痕。	良	密	(横幅)4.8	(縦長)5.6	(厚さ)1.6	
K-29	26	瓦	丸瓦	端部・側縁全て欠	灰色(N4/0)	凸面ヘラナデ。	凹面布目痕。割れ口が一部、磨耗。砥石に転用か。	良	密	(横幅)9.4	(縦長)5.6	(厚さ)2.4	
K-62	27	瓦	丸瓦	端部・側縁全て欠か後端部付近か	灰白色(5Y7/1)	凸面ヘラナデ。	凹面布目痕。	良	密	(横幅)6.9	(縦長)4.6	(厚さ)1.2	
K-28	28	瓦	平瓦	右側縁部や残、他は欠	褐灰色(10YR6/1)	凸面格子目叩き痕。側縁部ヘラケズリ。	凹面ヘラナデか。	良	密	(横幅)3.2	(縦長)6.4	(厚さ)1.8	
K-12	29	瓦	平瓦	後端部・右側縁や残	灰白色(2.5Y8/1)	凸面格子目叩き痕。側縁・端部ヘラケズリ。	凹面器面不良につき、布目痕殆ど見えず。	良	密	(横幅)2.8	(縦長)4.2	(厚さ)2.8	
K-8	30	瓦	平瓦	左側縁部のみ残	灰白色(2.5Y8/1)	凸面格子目叩き痕。側縁部ヘラケズリ。	凹面布目痕。	良	密	(横幅)4.0	(縦長)6.2	(厚さ)1.8	
K-2	31	瓦	平瓦	端部のみ残	黄灰色(2.5YR5/1)	凸面格子目叩き痕。端部ヘラケズリ。	凹面布目痕。	良	密	(横幅)3.9	(縦長)6.2	(厚さ)1.4	
K-29	32	瓦	平瓦	端部・側縁全て欠	褐灰色(10YR4/1)	凸面格子目叩き痕。	凹面布目痕。	良	密	(横幅)5.2	(縦長)6.4	(厚さ)1.4	
K-8	33	瓦	平瓦	端部・側縁全て欠	黄灰色(2.5Y6/1)	凸面格子目叩き痕。複数回の格子目叩き痕残る。	凹面布目痕。	良	密	(横幅)6.6	(縦長)3.1	(厚さ)2.4	
K-16	34	瓦	平瓦	端部のみ残か	褐色(7.5YR7/6)	凸面格子目叩き痕。僅かに残る。	凹面布目痕。	良	密	(横幅)2.4	(縦長)4.2	(厚さ)1.0	
K-20	35	瓦	平瓦	前端部・左側縁や残	にぶい黄褐色(10YR7/4)	凸面縄目叩き痕。	凹面器面不良につき、布目痕殆ど見えず。	良	密	(横幅)5.4	(縦長)5.2	(厚さ)1.8	
K-51	36	瓦	平瓦	左側縁部のみ残	灰黄色(2.5Y7/2)	凸面縄目叩き痕。側縁部ヘラケズリ。	凹面器面不良につき、布目痕殆ど見えず。	良	密	(横幅)10.0	(縦長)11.8	(厚さ)2.8	
K-23	37	瓦	平瓦	左側縁部のみ僅かに残	褐色(5YR6/6)	凸面縄目叩き痕。側縁部ヘラケズリ。	凹面布目痕。	良	密	(横幅)4.2	(縦長)3.8	(厚さ)2.2	
K-51	38	石器	砥石	両端部欠失	淡黄色(2.5Y8/3)	正面磨耗痕著しい。擦痕残る。泥岩。				(横幅)2.0	(縦長)3.2	(厚さ)1.3	重量14.2g

第3表 出土遺物観察表 (3)

地点・トレンチ	No.	種別	器種	遺存	色調	外面の特徴	内面の特徴	焼成	胎土	※径は、復元値を含む。高さは、現存高(cm)。				
										口径 (上径)	底径 (下径)	器高	最大径	
一括	1	石器	磨石	両端部欠失	灰白色(2.5Y7/1)	右側面、磨耗痕著しい。				(横幅)2.3	(縦長)1.9	(厚さ)1.4	重量10.1g	
一括	2	金属器	銭貨	完存		元豊通宝。				(横幅)2.28	(縦長)2.24	(厚さ)0.06	重量1.2g	
一括	3	金属器	銭貨	60%残		寛永通宝。						(厚さ)0.11	重量1.7g	
001	1	弥生土器	甕	口縁部片	にぶい橙色(7.5YR7/3)	口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。ヘラナデ。	横位のヘラミガキ。	良	密	19.4	17.6	5.2		
001	2	須恵器	蓋	天井部～口縁端部40%	灰色(N6/0)	ロクロ調整。天井部は回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	1～2mm大、黒灰色粒等に入る	15.4	17.4	4.2		
001	3	須恵器	蓋	口縁端部片	橙色(7.5YR7/6)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	やや不良	緻密					
002	1	灰釉陶器	長頸壺	底部片	灰白色(N8/0)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	緻密					
002	2	カワラケ	皿	口縁～底部40%	橙色(7.5YR6/6)	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	良	密	7.8	5.8	1.4		
003	1	縄文土器	深鉢	胴部片	明褐色(7.5YR5/6)	R.Lの斜縄文施す。	ナデ。	良	密					
003	2	弥生土器	壺	胴部片	明赤褐色(5YR5/6)	沈線に区画された中にL.Rの斜縄文施す。	ナデ。	良	密					
003	3	弥生土器	甕	口縁部片	淡橙色(5YR8/4)	口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。ヘラナデ。	ヘラナデ。	良	密					
003	4	土師器	杯	口縁～底部60%	橙色(7.5YR7/6)	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	良	やや粗	13.8	7.2	3.6		
003	5	土師器	杯	口縁～底部30%	橙色(5YR7/8)	ヘラケズリ。	格子状暗文入る。口縁部、内面に凹み縦走る。	良	密	13.8	8.4	4.6		
003	6	土師器	杯	胴部～底部40%	にぶい黄橙色(10YR7/4)	ロクロ調整。底部回転ヘラ切り。	ロクロ調整。	良	密	10.8	7.4	2.6		
003	7	土師器	杯	底部片	橙色(5YR6/6)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	密					
003	8	土師器	杯	胴部～底部30%	橙色(2.5YR7/6)	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	良	密	10.0	5.8	1.6		
003	9	土師器	小型甕か	胴部～底部40%	橙色(5YR6/8)	ヘラケズリ。	ヘラナデ。	良	密	9.4	4.2	2.8		
003	10	土師器	甕	口縁部片	にぶい黄橙色(10YR7/4)	複合口縁。折り返し部は横位のハケメ。	ヘラナデ。	良	密					
003	11	土師器	甕	口縁部片	黒色(7.5YR2/1)	複合口縁。折り返し部は横位のハケメ	ヘラナデ。	良	密					
003	12	土師器	甕	口縁部片	黄褐色(7.5YR7/8)	複合口縁。器面状態不良。	ヘラナデ。	良	密					
003	13	土師器	甕	口縁部20%	橙色(5YR6/8)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	密	17.8	15.8	3.6		
003	14	土師器	甕	口縁部片	にぶい橙色(5YR7/4)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	密					
003	15	土師器	甕	口縁部片	橙色(5YR7/8)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	密					
003	16	土師器	甕	頸部～胴部20%	橙色(7.5YR6/6)	頸部縦位のハケメ。胴部縦位のハケメ。ヘラナデ。ヘラミガキ。	ヘラナデ。胴部下端横位のハケメ。	良	密	10.2	12.1	5.8		
003	17	土師器	甕	胴部～底部60%	橙色(7.5YR6/6)	ヘラケズリ。	ヘラナデ。	良	密	10.4	3.8	2.8		
003	18	須恵器	蓋	天井部～口縁端部70%	灰色(N6/0)	ロクロ調整。天井部は回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	1～2mm大、黒灰色粒等に入る	5.8	14.6	4.0		
003	19	須恵器	蓋	口縁端部20%	灰色(5Y5/1)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	緻密	9.8	13.2	1.1	13.8	
003	20	須恵器	蓋	天井部～口縁端部40%	灰色(N6/0)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	緻密	6.8	9.2	1.2	9.4	
003	21	須恵器	杯	ほぼ完存	灰色(N5/0)	ロクロ調整。体部下半は回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	1～3mm大、黒灰色粒等に入る	12.4	8.2	4.4	15.0	
003	22	須恵器	杯	口縁～底部70%	灰色(N5/0)	ロクロ調整。体部下半は回転ヘラケズリ。部分的に自然釉が付着する	ロクロ調整。	良	1～15mm大、黒灰色粒々入る	13.2	6.4	4.8	15.8	
003	23	須恵器	杯	口縁～底部40%	灰色(N5/0)	ロクロ調整。体部下半は回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	1～3mm大、黒灰色粒等に入る	12.6	6.6	4.2	15.2	
003	24	須恵器	杯	口縁～胴部下半20%	灰色(N6/0)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	緻密	10.0	7.2	2.0	12.2	
003	25	須恵器	杯	口縁～底部70%	灰色(7.5Y5/1)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。火押痕あり。	ロクロ調整。火押痕あり。	良	緻密	12.6	9.0	4.6		
003	26	須恵器	杯	口縁～底部60%	灰色(N5/0)	ロクロ調整。体部下端回転ヘラケズリ。底部回転糸切り無調整。火押痕あり。	ロクロ調整。火押痕あり。	良	緻密	12.6	7.8	4.8		
003	27	須恵器	杯	胴部～底部40%	灰色(7.5Y6/1)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	10.6	7.8	1.8		
003	28	須恵器	杯	胴部～底部30%	灰白色(5Y7/1)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	11.2	8.8	1.4		
003	29	須恵器	杯	胴部～底部40%	灰色(N6/0)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	10.8	8.2	1.5		
003	30	須恵器	杯	底部のみ30%	灰色(5Y5/1)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	9.4	8.0	0.8		
003	31	須恵器	杯	底部のみ20%	灰色(7.5Y5/1)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	9.4	7.6	1.1		
003	32	須恵器	杯	底部片	灰白色(7.5Y7/1)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密					
003	33	須恵器	甕	口縁部～頸部片	黄灰色(2.5Y5/1)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	緻密					
003	34	須恵器	甕	口縁部～頸部片	灰色(N4/0)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	緻密					
003	35	須恵器	甕	胴部下半～底部30%	暗灰色(N3/0)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	緻密	19.8	11.8	5.6		
B2グリッド	1	縄文土器	鉢	胴部片	明赤褐色(2.5YR5/6)	2条の太い沈線施す。	ナデ。	良	粗					
B2グリッド	2	弥生土器	壺	口縁部片	明赤褐色(2.5YR5/6)	複合口縁。折り返し部はL.Rの斜縄文施す。	ヘラナデ。	良	密					
B1グリッド	3	弥生土器	甕	口縁部片	明赤褐色(5YR5/8)	口唇部指頭による刻み目。ヘラナデ。	輪積み痕を残し、縄文原体を刺突し刻み目。	良	密					
B2グリッド	4	弥生土器	甕	口縁部片	にぶい橙色(7.5YR7/4)	口唇部ヘラ状工具による刻み目。ヘラナデ。	ヘラナデ。	良	密					
B2グリッド	5	土師器	杯	口縁～底部80%	橙色(2.5YR6/8)	器面状態不良。ロクロ調整。底部手持ちヘラケズリ。	器面状態不良。ロクロ調整。	やや不良	粗(2～3mm大、白色粒等に入る)	11.8	8.4	4.7		
B2グリッド	6	土師器	杯	口縁～底部60%	橙色(7.5YR6/6)	ロクロ調整。底部回転糸切り離し後、外周回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	密	12.6	6.6	4.7		
B2グリッド	7	土師器	杯(灯明皿)	口縁～底部90%	橙色(5YR6/8)	ロクロ調整。体部下端回転ヘラケズリ。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。内面に油煙付着。	良	密	12.8	6.2	3.8		
B1グリッド	8	土師器	杯	口縁～底部60%	黄褐色(7.5YR7/8)	ロクロ調整。底部静止ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	密	12.0	6.0	3.8		
B1グリッド	9	土師器	杯	口縁～底部70%	橙色(7.5YR7/6)	ロクロ調整。底部回転糸切り無調整。	ロクロ調整。	良	密	12.1	6.4	4.8		
B1グリッド	10	土師器	杯	底部のみ60%	橙色(2.5YR6/8)	ロクロ調整。底部回転糸切り離し後、外周回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	密	11.2	9.2	1.6		
B1グリッド	11	土師器	甕	口縁部のみ30%	にぶい橙色(7.5YR7/4)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	密	12.4	10.6	3.2		
B2グリッド	12	土師器	甕	口縁～胴部上半30%	橙色(5YR6/6)	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	良	密	13.0	13.8	4.0		
B1グリッド	13	土師器	甕	口縁部片	明赤褐色(5YR5/6)	複合口縁。折り返し部はヘラナデ。	ヘラナデ。	良	密					
B2グリッド	14	土師器	甕	口縁部片	明赤褐色(5YR5/6)	ヨコナデ。口唇部S字状につまみ上げられる。	ヨコナデ。	良	密					
B2グリッド	15	土師器	甕	胴部下半～底部30%	明赤褐色(2.5YR5/6)	ヘラケズリ。	ヘラナデ。	良	密	11.8	7.0	4.0		
B1グリッド	16	土師器	甕	胴部下半～底部40%	橙色(5YR6/6)	ヘラケズリ。	ヘラナデ。	良	密	7.2	5.0	2.2		
A2グリッド	17	須恵器	蓋	天井部～口縁端部60%	灰色(N5/0)	ロクロ調整。天井部は回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	粗(1～2mm大、黒色粒等に入る)	8.2	14.0	3.6	14.4	
A1グリッド	18	須恵器	蓋	口縁端部片	灰白色(N7/0)	ロクロ調整。天井部は自然釉付着。	ロクロ調整。	良	緻密					
B1グリッド	19	須恵器	蓋	天井部～口縁端部30%	灰白色(N7/0)	ロクロ調整。天井部は回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	11.2	11.0	1.6		
B1グリッド	20	須恵器	蓋	口縁端部片	灰色(N5/0)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	緻密					
B2グリッド	21	須恵器	蓋	天井部～口縁端部30%	灰色(N6/0)	ロクロ調整。つまみ部欠損。	ロクロ調整。	良	緻密	8.2	11.0	2.6	11.4	
B2グリッド	22	須恵器	蓋	天井部～口縁端部40%	灰色(N5/0)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	緻密	8.0	18.2	3.2		
B2グリッド	23	須恵器	蓋	口縁端部片	灰色(N6/0)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	緻密					
B1グリッド	24	須恵器	蓋	口縁端部片	灰白色(N7/0)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	緻密					

第4表 出土遺物観察表 (4)

※径は、復元値を含む。高さは、現存高(cm)。

地点・トレンチ	No.	種別	器種	遺存	色調	外面の特徴	内面の特徴	焼成	胎土	口径 (上径)	底径 (下径)	器高	最大径
B2グリッド	25	須恵器	杯(灯明皿)	口縁～底部70%	灰色(N5/0)	ロクロ調整。口縁部油煙付着。底部静止ヘラ切り起こし。	ロクロ調整。油煙付着。	良	緻密	11.4	4.2	3.6	
B1グリッド	26	須恵器	杯	口縁～底部50%	灰白色(SY7/1)	ロクロ調整。底部回転系切り無調整。	ロクロ調整。	良	緻密	11.6	6.0	4.2	
B2グリッド	27	須恵器	杯	口縁～底部40%	灰色(SY6/1)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	13.0	8.2	3.9	
B2グリッド	28	須恵器	杯	口縁～底部40%	灰色(SY6/1)	ロクロ調整。底部静止ヘラ切り。	ロクロ調整。	良	緻密	13.0	8.4	2.8	
B2グリッド	29	須恵器	杯	口縁～底部30%	黄灰色(2.5Y6/1)	ロクロ調整。底部回転系切り離し後、外周回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。火摩痕あり。	やや不良	良(2mm大、白色粉等に入る)	12.8	8.0	3.8	
B2グリッド	30	須恵器	杯	口縁～底部60%	灰色(SY6/1)	ロクロ調整。底部回転系切り無調整。	ロクロ調整。	良	緻密	12.0	7.2	3.6	
B1グリッド	31	須恵器	杯	口縁部のみ20%	灰白色(SY7/1)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	やや不良	緻密	14.2	11.2	3.4	
B2グリッド	32	須恵器	杯	底部上半～底部30%	灰白色(SY7/1)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。火摩痕あり。	ロクロ調整。	良	緻密	11.6	7.6	3.8	
B2グリッド	33	須恵器	杯	体部下半～底部30%	灰白色(2.5Y7/1)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	12.0	9.0	1.6	
B1グリッド	34	須恵器	杯	体部下半～底部30%	灰色(SY6/1)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	10.6	8.0	1.8	
B2グリッド	35	須恵器	杯	底部のみ30%	灰色(SY6/1)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	7.6	6.4	1.1	
B2グリッド	36	須恵器	杯	底部のみ60%	褐灰色(10YR5/1)	底部回転系切り離し後、外周回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	やや不良	緻密	9.6	7.8	0.8	
B2グリッド	37	須恵器	杯	体部下半～底部40%	黄灰色(2.5Y6/1)	ロクロ調整。底部回転系切り離し後、外周回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	9.8	8.2	1.2	
B2グリッド	38	須恵器	杯	体部下半～底部30%	灰色(SY6/1)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	10.0	6.6	1.8	
B1グリッド	39	須恵器	杯	底部のみ30%	暗灰色(N3/0)	ロクロ調整。底部回転系切り無調整。	ロクロ調整。	やや不良	緻密	9.4	7.6	1.0	
B2グリッド	40	須恵器	杯	底部のみ30%	灰色(N4/0)	底部回転系切り無調整。	ロクロ調整。	良	緻密	8.6	6.8	1.0	
B2グリッド	41	須恵器	高台付杯	体部上半～底部30%	灰白色(SY7/1)	ロクロ調整。体部下半回転ヘラケズリ。火摩痕あり。	ロクロ調整。底部と体部の接合部、凹み遺る。	良	緻密	14.0	9.4	4.2	
B2グリッド	42	須恵器	高台付杯	体部上半～底部40%	灰色(N4/0)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	14.4	11.2	4.4	
B2グリッド	43	須恵器	高台付杯	底部のみ30%	灰色(N5/0)	底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	10.8	8.8	2.0	
B2グリッド	44	須恵器	高台付杯	底部のみ70%	灰色(SY6/1)	底部回転ヘラケズリ。付け高台、一部剥落。	ロクロ調整。	やや不良	緻密	12.2	9.2	2.3	
B2グリッド	45	須恵器	高台付杯	底部のみ20%	灰色(SY6/1)	底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	9.6	8.6	1.5	
B2グリッド	46	須恵器	高台付杯	底部のみ80%	灰色(SY6/1)	底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	8.2	7.6	1.8	
B1グリッド	47	須恵器	高台付杯	底部のみ40%	赤灰色(2.5YR5/1)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	やや不良	緻密	16.8	11.0	3.6	
B1グリッド	48	須恵器	高台付杯	底部のみ70%	灰色(SY6/1)	底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	良(1～2mm大、黒色粉等に入る)	10.6	7.8	2.2	
B2グリッド	49	須恵器	高台付杯	体部下半～底部80%	暗灰色(N3/0)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	9.6	6.0	2.2	
B2グリッド	50	須恵器	鉢	口縁～底部70%	褐灰色(10YR6/1)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリの後、手持ちヘラケズリ。	ロクロ調整。	やや不良	緻密	18.8	8.6	7.8	
B1グリッド	51	須恵器	小型鉢	口縁～底部80%	灰白色(N7/0)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	7.0	5.6	6.0	
B2グリッド	52	須恵器	甕	胴部下半～底部30%	灰白色(2.5Y7/1)	ヨコナデ。	ヨコナデ。	良	緻密	16.2	14.0	2.8	
B2グリッド	53	須恵器	壺	胴部下半～底部30%	灰色(N4/0)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	緻密	19.2	10.8	7.8	
B1グリッド	54	須恵器	甕	碗面縁辺部のみ20%	灰色(N6/0)	円面硯。海部の縁辺のみ残存。透脚式。	ヨコナデ。	良	緻密	12.1	17.2	7.0	重量22.8g
B1グリッド	55	土製品	紡錘車	完存	橙色(7.5YR7/6)	(上面)中央に回転系切り痕。外周部、ユビナデ。指頭痕残る。中央やや下に焼成前穿孔。土器製作時の底部粘土柱を用いて製作か。	(下面)中央にヘラ切り痕。外周部、ユビナデ。指頭痕残る。中央やや下に焼成前穿孔。はみ出た粘土をなでつけている。	良	密	(幅)7.2	(縦)7.0	(厚)2.2	重量144.1g
一括	1	縄文土器	深鉢	胴部片	にぶい赤褐色(5YR4/3)	洗滌で区画された中に列点施す。後期称名寺式。	ナデ。	良	やや粗				
一括	2	須恵器	杯	胴部片	灰色(N6/0)	ロクロ調整。体部下半回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密				
一括	3	須恵器	杯	口縁～体部下半30%	灰色(SY6/1)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	緻密	12.4	10.0	3.0	
一括	4	須恵器	杯	体部下半～底部30%	灰色(SY6/1)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。火摩痕あり。	ロクロ調整。	良	緻密	9.2	6.6	0.8	
一括	5	須恵器	高台付杯	口縁～底部40%	灰白色(5Y8/1)	ロクロ調整。底部回転系切り離し後、外周回転ヘラケズリ。高台部、剥落。	ロクロ調整。	良	緻密	13.4	8.8	4.8	
一括	6	須恵器	高台付杯	体部下半～底部70%	灰白色(5Y7/1)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	12.2	9.4	2.2	
一括	7	須恵器	高台付杯	体部下半～底部30%	灰色(SY6/1)	ロクロ調整。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ調整。	良	緻密	10.0	8.4	1.7	
一括	8	須恵器	高台付杯	底部のみ20%	灰白色(5Y8/1)	ロクロ調整。	ロクロ調整。	良	緻密	10.0	8.0	1.4	
一括	9	灰釉陶器	壺	底部のみ20%	灰白色(7.5Y8/1)	底部回転ヘラケズリ。灰釉付着。	ロクロ調整。	良	緻密	11.6	12.0	1.8	
003	①	埴輪	円筒	口縁部片	にぶい赤褐色(2.5YR5/4)	縦のハケメ→口縁部ヨコナデ。	横のハケメ→口縁部ヨコナデ。	良	密				
B2グリッド	②	埴輪	円筒	口縁部片	赤灰色(2.5YR5/1)	縦のハケメ→口縁部ヨコナデ。	横のハケメ→口縁部ヨコナデ。	良	密				
003	③	埴輪	円筒	口縁部片	赤灰色(2.5YR5/1)	縦のハケメ→口縁部ヨコナデ。	横のハケメ→口縁部ヨコナデ。	良	密				
003	④	埴輪	円筒	口縁部片	明赤褐色(2.5YR5/8)	縦のハケメ→口縁部ヨコナデ。	横のハケメ→口縁部ヨコナデ。	良	密				
J-55	⑤	埴輪	円筒	口縁部片	にぶい褐色(7.5YR6/3)	縦のハケメ→口縁部ヨコナデ。	横のハケメ→口縁部ヨコナデ。	良	密				
003	⑥	埴輪	円筒	口縁部片	橙色(SYR6/6)	縦のハケメ→口縁部ヨコナデ。	横のハケメ→口縁部ヨコナデ。	良	密				
003	⑦	埴輪	円筒	口縁部片	橙色(SYR6/6)	縦(左上から右下)のハケメ→口縁部ヨコナデ。	横のハケメ→口縁部ヨコナデ。	良	密				
B2グリッド	⑧	埴輪	円筒	口縁部片	橙色(SYR6/6)	縦のハケメ→口縁部ヨコナデ。	横のハケメ→口縁部ヨコナデ。	良	密				
003	⑨	埴輪	円筒	口縁部片	にぶい褐色(7.5YR7/4)	縦のハケメ→口縁部ヨコナデ。	横のハケメ→口縁部ヨコナデ。	良	密				
003	⑩	埴輪	円筒	口縁部片	にぶい褐色(7.5YR6/4)	縦のハケメ→口縁部ヨコナデ。	横のハケメ→口縁部ヨコナデ。	良	密				
003	⑪	埴輪	円筒	口縁部片	にぶい褐色(SYR6/3)	縦のハケメ→口縁部ヨコナデ。	横のハケメ→口縁部ヨコナデ。	良	密				
003	⑫	埴輪	円筒	口縁部片	にぶい褐色(2.5YR6/4)	縦のハケメ→口縁部ヨコナデ。	横のハケメ→口縁部ヨコナデ。	良	密				
003	⑬	埴輪	円筒	口縁部片	明赤褐色(2.5YR5/8)	縦のハケメ→口縁部ヨコナデ。	横のハケメ→口縁部ヨコナデ。	良	密				
003	⑭	埴輪	円筒	口縁部片	にぶい褐色(2.5YR6/4)	縦のハケメ→口縁部ヨコナデ。	横のハケメ→口縁部ヨコナデ。	良	密				
003	⑮	埴輪	円筒	口縁部片	明赤褐色(2.5YR5/8)	縦のハケメ→口縁部ヨコナデ。	横のハケメ→口縁部ヨコナデ。	良	密				
B1グリッド	⑯	埴輪	円筒	胴部片	橙色(SYR6/8)	器面状態不良。緩いM字状凸帯貼り付け→ヨコナデ→凸帯間に円形透孔穿つ。	ナデ。	やや不良	密				
003	⑰	埴輪	円筒	胴部片	橙色(7.5YR7/6)	器面状態不良。緩いM字状凸帯貼り付け→ヨコナデ→凸帯間に円形透孔穿つ。	ナデ。	良	密				
003	⑱	埴輪	円筒	胴部片	明赤褐色(5YR5/8)	縦のハケメ→M字状凸帯貼り付け→ヨコナデ→凸帯間に円形透孔穿つ。	接合痕が明瞭。一部ユビナデ。	良	密				
003	⑲	埴輪	円筒	胴部片	橙色(7.5YR6/6)	縦のハケメ→緩いM字状凸帯貼り付け→ヨコナデ→凸帯間に円形透孔穿つ。	接合痕が明瞭。ナデ。	良	やや粗				
B2グリッド	⑳	埴輪	円筒	胴部片	橙色(7.5YR7/6)	縦のハケメ→緩いM字状凸帯貼り付け→ヨコナデ→凸帯間に円形透孔穿つ。	接合痕が明瞭。ナデ。	良	やや粗				
003	㉑	埴輪	円筒	胴部片	にぶい褐色(7.5YR7/4)	縦のハケメ→緩いM字状凸帯貼り付け→ヨコナデ→凸帯間に円形透孔穿つ。	ナデ。	良	粗				
003	㉒	埴輪	円筒	胴部片	橙色(SYR6/8)	縦のハケメ→緩いM字状凸帯貼り付け→ヨコナデ→凸帯間に円形透孔穿つ。	ナデ。	良	密				
003	㉓	埴輪	円筒	胴部20%	橙色(7.5YR7/6)	縦のハケメ→緩いM字状凸帯貼り付け→ヨコナデ→凸帯間に円形透孔穿つ。	接合痕が明瞭。ユビナデ。	やや不良	粗				
003	㉔	埴輪	円筒	胴部片	明赤褐色(5YR5/6)	縦のハケメ→緩いM字状凸帯貼り付け→ヨコナデ→凸帯間に円形透孔穿つ。	ナデ。	良	密				
003	㉕	埴輪	円筒	胴部片	橙色(SYR7/6)	上端が突出する緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ→凸帯間に円形透孔穿つ。	ユビナデ。	良	やや粗				

第5表 出土遺物観察表 (5)

※径は、復元値を含む。高さは、現存高(cm)。

地点・トレンチ	No.	種別	器種	遺存	色調	外面の特徴	内面の特徴	焼成	胎土	口径 (上径)	底径 (下径)	器高	最大径
B2グリッド	㉔	埴輪	円筒	胴部片	赤褐色(2.5YR4/6)	やや上端が突出する緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ→凸帯間に円形透孔穿つ。	ナデ。	良	密				
003	㉕	埴輪	円筒	胴部片	橙色(5YR6/8)	縦のハケメ→やや上端が突出する緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ→凸帯間に円形透孔穿つ。	ユビナデ。	良	密				
003	㉖	埴輪	円筒	胴部片	黄橙色(7.5YR7/8)	縦のハケメ→上端が突出する緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ→凸帯間に円形透孔穿つ。	ユビナデ。	良	密				
003	㉗	埴輪	円筒	胴部片	明黄褐色(10YR7/6)	縦のハケメ→凸帯(剥落)→ヨコナデ→凸帯間に円形透孔穿つ。	接合痕が明瞭。ユビナデ。	良	密				
003	㉘	埴輪	円筒	胴部片	橙色(5YR6/6)	縦のハケメ→凸帯間に円形透孔穿つ。	接合痕が明瞭。ナデ。	良	やや粗				
003	㉙	埴輪	円筒	胴部片	橙色(2.5YR6/6)	緩いM字状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	ユビナデ。	良	やや粗				
003		埴輪	円筒	胴部片	橙色(2.5YR7/6)	緩いM字状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	ユビナデ。	良	やや粗				
003		埴輪	円筒	胴部片	橙色(5YR6/6)	縦のハケメ→緩いM字状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	接合痕が明瞭。ユビナデ。	良	やや粗				
003		埴輪	円筒	胴部片	橙色(5YR7/6)	縦のハケメ→やや上端が突出する緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	ユビナデ。	良	密				
003		埴輪	円筒	胴部片	橙色(5YR7/8)	縦のハケメ→緩いM字状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	接合痕が明瞭。ユビナデ。	良	密				
003		埴輪	円筒	胴部片	橙色(7.5YR7/6)	縦のハケメ→緩いM字状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	接合痕が明瞭。ナデ。	良	密				
B2グリッド		埴輪	円筒	胴部片	橙色(5YR7/6)	緩いM字状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	接合痕が明瞭。ユビナデ。	良	密				
003		埴輪	円筒	胴部片	橙色(7.5YR6/6)	縦のハケメ→緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	ユビナデ。	良	やや粗				
003		埴輪	円筒	胴部片	橙色(5YR7/6)	縦のハケメ→緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	接合痕が明瞭。ユビナデ。	良	粗				
003		埴輪	円筒	胴部片	橙色(5YR7/6)	縦のハケメ→緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	接合痕が明瞭。ユビナデ。	良	密				
003		埴輪	円筒	胴部片	赤褐色(5YR4/6)	縦のハケメ→緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	接合痕が明瞭。ユビナデ。	不良	粗				
J-42		埴輪	円筒	胴部片	橙色(5YR6/6)	緩いM字状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	ユビナデ。	良	密				
003		埴輪	円筒	胴部片	橙色(5YR6/6)	緩いM字状凸帯貼り付け→ヨコナデ。凸帯下部に粘土附着。	接合痕が明瞭。ユビナデ。	良	やや粗				
003		埴輪	円筒	胴部片	橙色(2.5YR6/8)	やや上端が突出する緩いM字状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	ユビナデ。	良	密				
A2グリッド		埴輪	円筒	胴部片	明赤褐色(5YR5/6)	やや上端が突出する緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	ナデ。	良	やや粗				
003		埴輪	円筒	胴部片	明赤褐色(2.5YR5/6)	縦のハケメ→緩いM字状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	接合痕が明瞭。ユビナデ。	やや不良	粗				
003		埴輪	円筒	胴部片	橙色(7.5YR7/6)	縦のハケメ→両端が突出する台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	ナデ。	良	密				
B2グリッド		埴輪	円筒	胴部片	淡橙色(5YR8/4)	上端が突出する緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	ユビナデ。	良	やや粗				
003		埴輪	円筒	胴部片	橙色(5YR6/8)	縦のハケメ→両端が突出する台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	接合痕が明瞭。ユビナデ。	良	密				
003		埴輪	円筒	胴部片	橙色(5YR7/8)	縦のハケメ→上端が突出する台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	ユビナデ。	良	密				
B2グリッド		埴輪	円筒	胴部片	橙色(5YR7/6)	やや上端が突出する緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	ナデ。	良	密				
003		埴輪	円筒	胴部片	橙色(5YR7/8)	縦のハケメ→やや上端が突出する緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	接合痕が明瞭。ユビナデ。	やや不良	やや粗				
003		埴輪	円筒	胴部片	橙色(5YR6/6)	縦のハケメ→緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	接合痕が明瞭。ナデ。	良	密				
B2グリッド		埴輪	円筒	胴部片	明赤褐色(2.5YR5/8)	縦のハケメ→やや上端が突出する緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	斜方向のユビナデ。	良	やや粗				
003		埴輪	円筒	胴部片	橙色(5YR6/6)	縦のハケメ→緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	接合部付近、横方向のハケメ。ユビナデ。	良	やや粗				
001		埴輪	円筒	胴部片	橙色(2.5YR6/8)	縦のハケメ→緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	接合痕が明瞭。ユビナデ。	やや不良	やや粗				
003		埴輪	円筒	胴部片	橙色(5YR7/6)	縦のハケメ→緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	ユビナデ。	良	やや粗				
B2グリッド		埴輪	円筒	胴部片	明赤褐色(2.5YR5/6)	凸帯の低い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	ユビナデ。	良	やや粗				
003		埴輪	円筒	胴部片	橙色(2.5YR6/8)	縦のハケメ→中央が突出する三角状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	ユビナデ。	良	粗				
003		埴輪	円筒	胴部片	明赤褐色(2.5YR5/6)	縦のハケメ→中央が突出する三角状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	ナデ。	良	やや粗				
003		埴輪	円筒	胴部片	橙色(5YR6/6)	縦のハケメ→上端が湾曲しながら突出する緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。凸帯下部はハケメが残存する。	ユビナデ。	良	やや粗				
B2グリッド		埴輪	円筒	胴部片	橙色(2.5YR6/8)	凸帯の低い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ。	接合痕が明瞭。ユビナデ。	やや不良	粗				
003		埴輪	円筒	底部片	橙色(5YR6/8)	縦のハケメ→板押圧。	斜方向のユビナデ→底部ヘラケズリ。基底部粘土帯幅 3.8cm。	良	粗				
B2グリッド		埴輪	円筒	底部片	明赤褐色(5YR5/6)	縦のハケメ→板押圧。板状工具の隅部圧痕ならぶ。	ユビナデ→底部ヘラケズリ。基底部粘土帯幅 3.3cm。	やや不良	やや粗				
B2グリッド		埴輪	円筒	底部片	橙色(5YR6/6)	縦のハケメ。	底部横方向のヘラケズリ。基底部粘土帯幅 2.8cm。底部に合わせ目見える (Z 接合)。	良	密				
003		埴輪	円筒	底部片	橙色(5YR6/6)	縦のハケメ→板押圧。底部に松葉・植物茎状圧痕。	ナデ→底部横方向のヘラケズリ。基底部粘土帯幅 2.4cm。	良	密				
B2グリッド		埴輪	円筒	底部片	橙色(5YR6/8)	縦のハケメ→板押圧。	ユビナデ→底部斜方向のヘラケズリ。	やや不良	粗				
003		埴輪	円筒	底部片	橙色(5YR6/8)	縦のハケメ→板押圧。	ナデ→底部横方向のヘラケズリ。	良	密				
003		埴輪	円筒	底部片	にぶい橙色(7.5YR7/4)	縦のハケメ→板押圧。	ユビナデ→底部横方向のヘラケズリ。	良	やや粗				
B2グリッド		埴輪	円筒	底部片	橙色(7.5YR7/6)	縦のハケメ。底部に松葉状圧痕。	ユビナデ→底部横方向のヘラケズリ。基底部粘土帯幅 4.4cm。	良	やや粗				
003		埴輪	円筒	底部片	橙色(5YR7/8)	縦のハケメ→板押圧。底部に植物茎状圧痕。	ユビナデ→底部横方向のヘラケズリ。	良	やや粗				
B2グリッド		埴輪	円筒	底部片	にぶい褐色(7.5YR5/4)	縦のハケメ。	ユビナデ。底部に合わせ目見える (Z 接合)。	不良	粗				
003		埴輪	円筒	底部片	橙色(7.5YR6/6)	縦のハケメ→板押圧。	ユビナデ。ナデ。底部に合わせ目見える (Z 接合)。基底部粘土帯幅 6.5cm。自重で内側に広がる。	不良	粗				
003		埴輪	円筒	底部片	にぶい黄橙色(10YR6/4)	縦のハケメ (上→下) により泥状の粘土が下方に垂下する。底部に植物茎状圧痕。	ユビナデ。底部に合わせ目見える (Z 接合)。基底部粘土帯幅 3.5cm。自重で内側に広がる。	やや不良	やや粗				
003・B1		埴輪	円筒	底部片	褐灰色(7.5YR6/1)	縦のハケメ→緩い台形状凸帯貼り付け→ヨコナデ→底部板押圧。底部に植物茎状圧痕。底部焼成不良部分斜めに欠失。	接合痕が明瞭。ユビナデ→底部横方向のヘラケズリ。	やや不良	粗				
003		埴輪	形象か		橙色(5YR7/6)	ユビナデ。ヘラナデ。一部に爪痕跡あり。		良	密				

写 真 图 版



遺跡の位置と周辺地形（空中写真・昭和36年撮影）

図版2



A地点

北から



北西から



調査状況 南東から

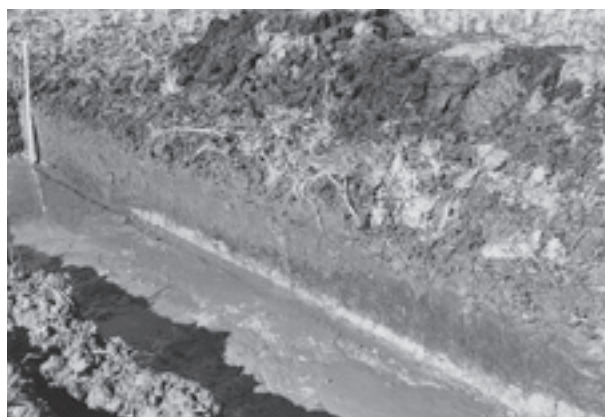


2トレンチ 北西から



B地点

南東から



28トレンチ 南東から



73トレンチ 南西から



73トレンチ 西から



C地点

南東から



4トレンチ 西から



D地点

北西から



348トレンチ 南から



E地点

南東から



131トレンチ 北西から



E 2 地点

南東から



5トレンチ 南から

図版4



F地点

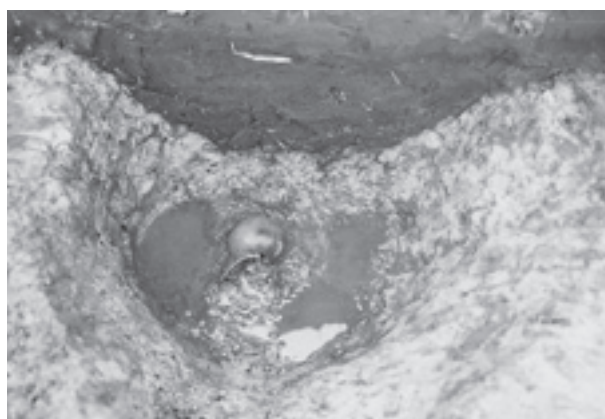
北西から



作業状況 東から



75トレンチ 南から



75トレンチ 001 東から



G地点

西から



105トレンチ 南から



166トレンチ 南から



166トレンチ 北西から



H 地点

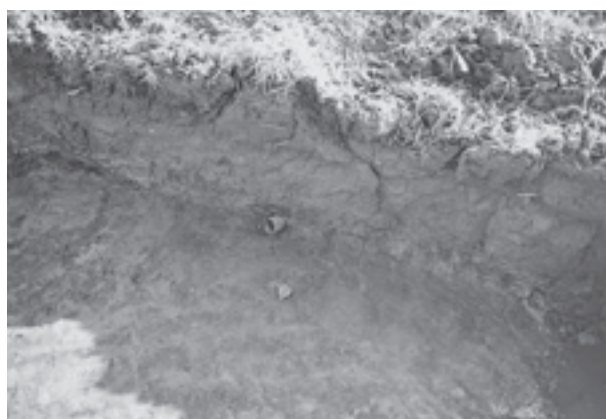
北東から



東から



55 トレンチ 西から



55 トレンチ 北から



I 地点

北から



東から



J 地点

南西から



54 トレンチ 南西から

図版 6



54トレンチ 遺物出土状況 東から



54トレンチ 西から

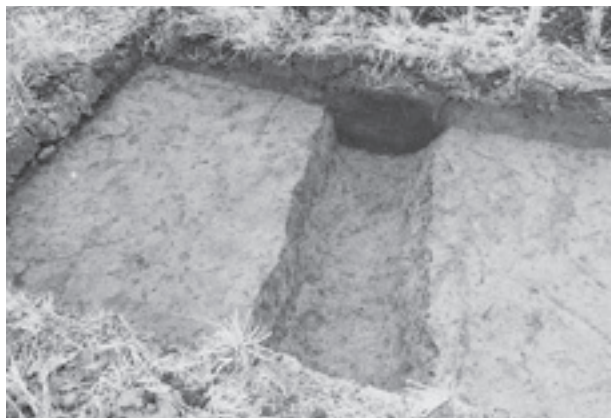


K地点

北東から



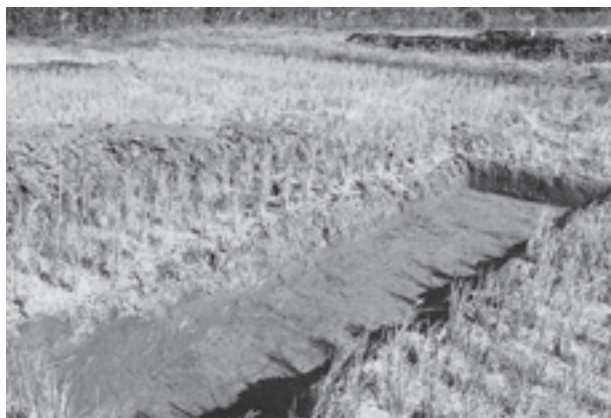
作業状況 東から



5トレンチ 北から



68トレンチ 南西から



6トレンチ 南東から



49トレンチ 南東から



本調査（J地点）

001号跡 北東から



001号跡 南東から



002号跡 北西から



002号跡 北東から



003号跡 検出状況 西から



003号跡 セクション 北から

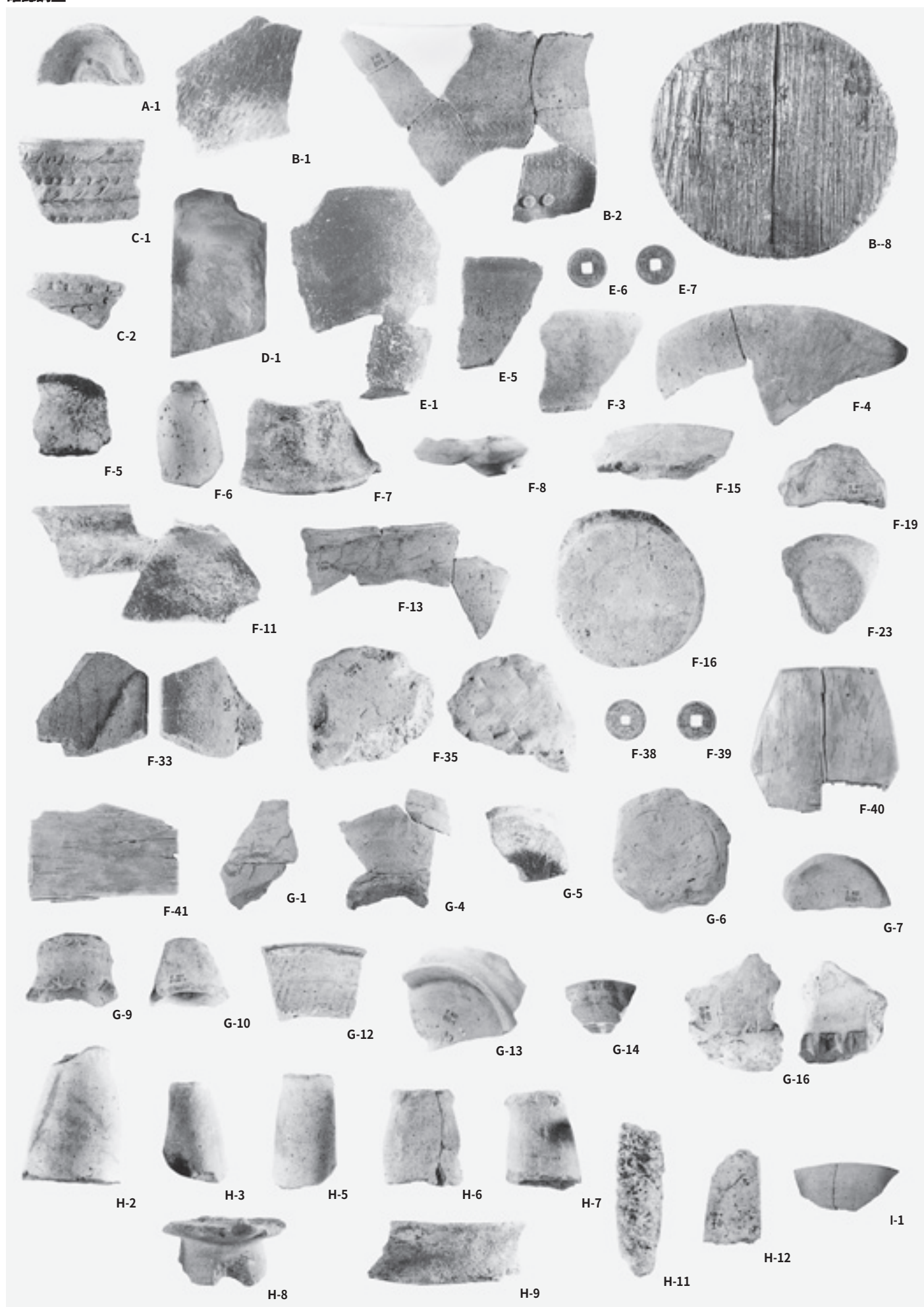


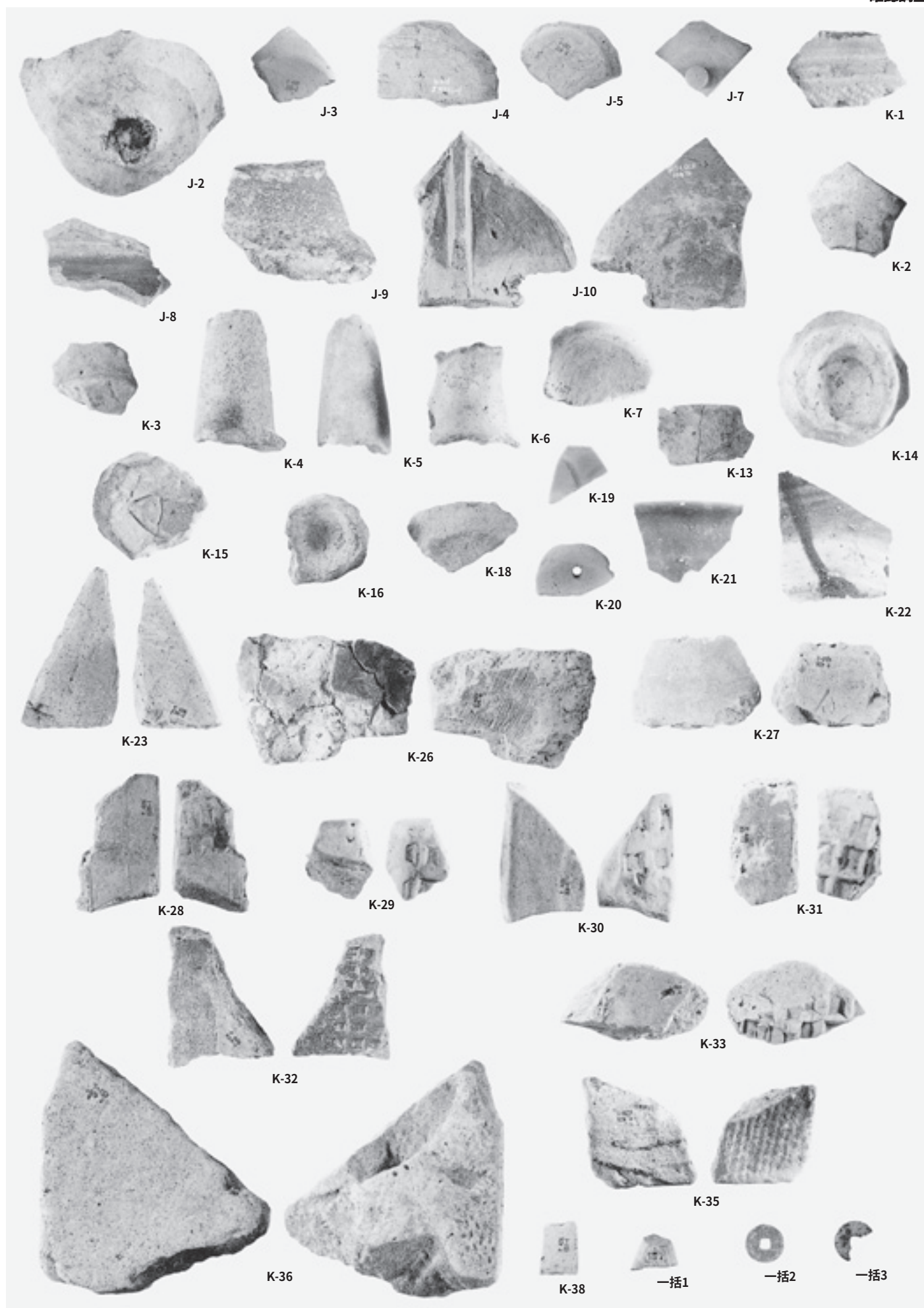
003号跡周辺 遺物出土状況 西から



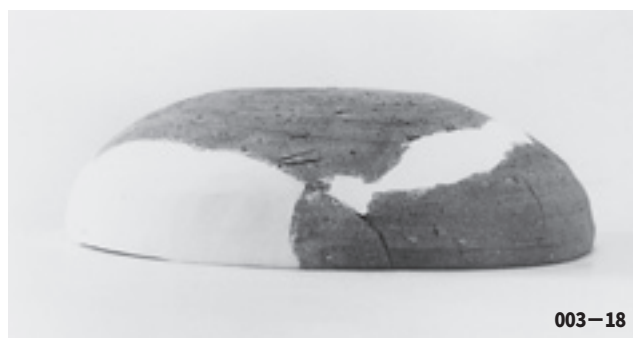
003号跡 西から





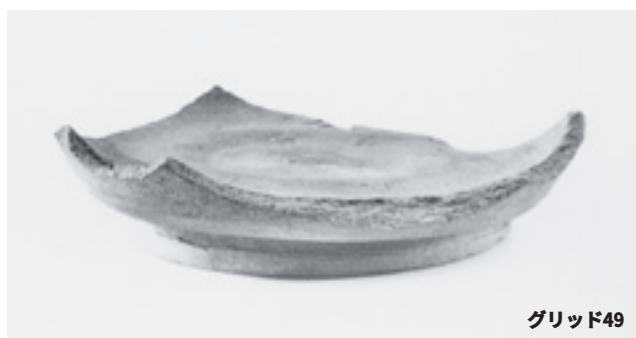


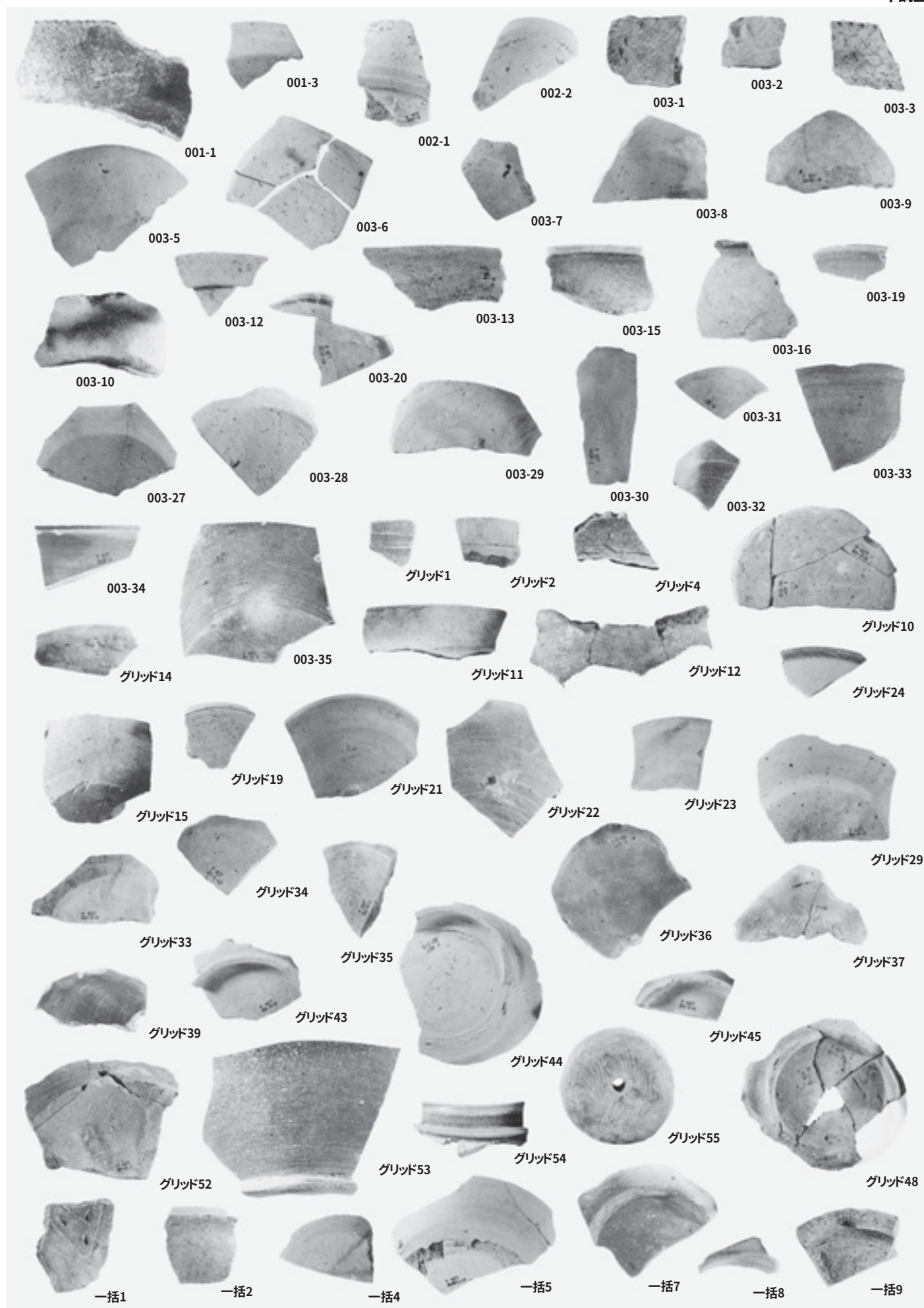
本調査

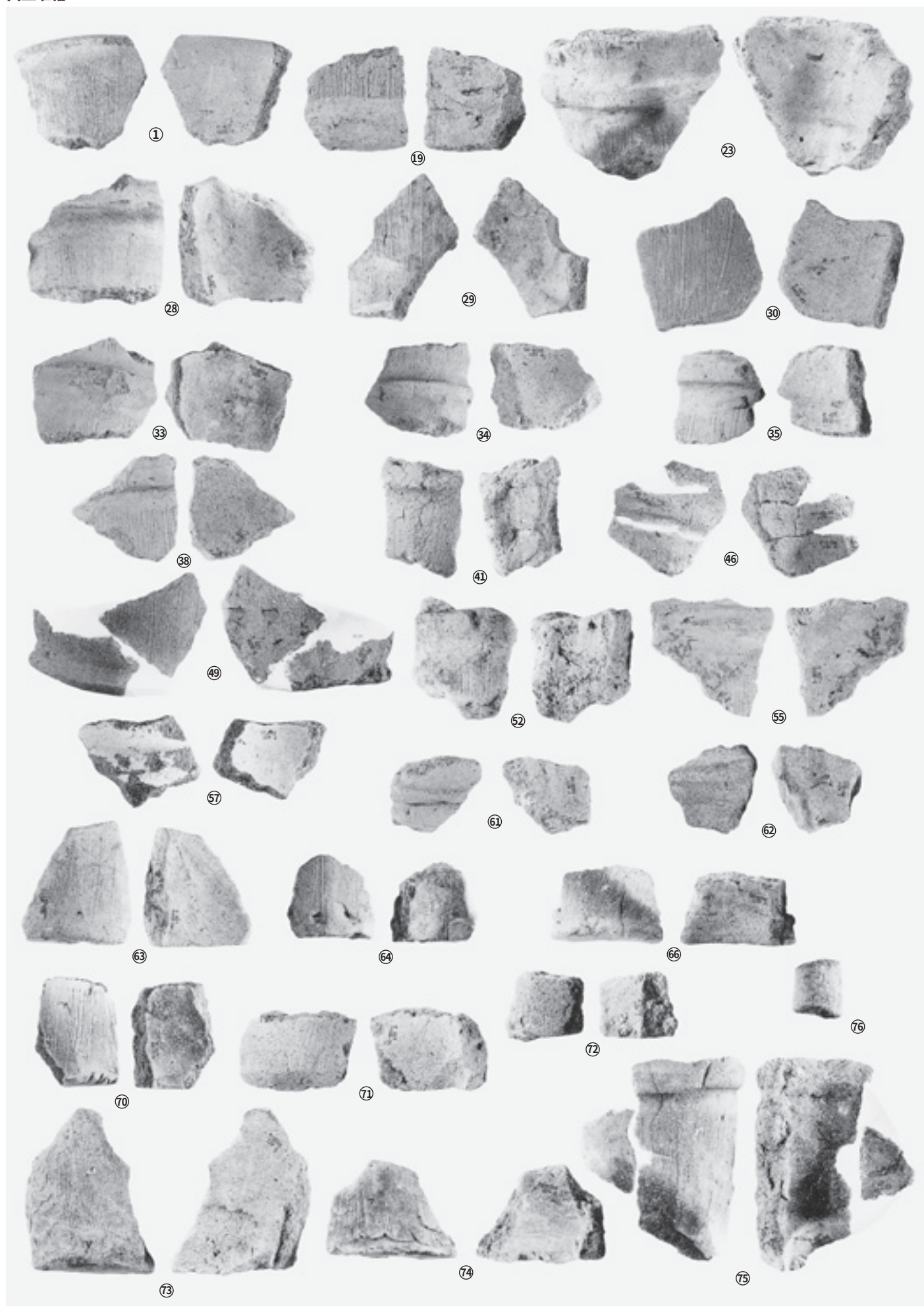




本調査







報告書抄録

ふりがな	いちほらしやまだいせきぐん
書名	市原市山田遺跡群
副書名	
巻次	
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書
シリーズ番号	第9集
編著者名	小川浩一
編集機関	市原市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 TEL 0436 (41) 9000
発行年月日	2009年3月17日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
やまだ いせきぐん 山田遺跡群A～ C・H～J地点	いちほらし いそが やちき 市原市磯ヶ谷地先ほか	12219	セ401	35 ° 27 ' 22 "	140 ° 07 ' 45 "	20050901 ～ 20060127	7,221m ² /339,000m ² (確認)	農業基盤整備
やまだ いせきぐん ちてん 山田遺跡群G地点 (文化庁分)	いちほらし いそが やちき 市原市磯ヶ谷地先ほか	12219	セ402	35 ° 26 ' 53 "	140 ° 07 ' 59 "	20051212 ～ 20051220	451m ² /15,875m ² (確認)	農業基盤整備
やまだ いせきぐん ちてん 山田遺跡群G地点 (市原市分)	いちほらし いそが やちき 市原市磯ヶ谷地先ほか	12219	セ401	35 ° 26 ' 55 "	140 ° 07 ' 54 "	20051216 ～ 20060117	1,354m ² /47,625m ² (確認)	農業基盤整備
やまだ いせきぐん 山田遺跡群D～G 地点	いちほらし いそが やちき 市原市磯ヶ谷地先ほか	12219	セ411	35 ° 27 ' 05 "	140 ° 07 ' 47 "	20061010 ～ 20070306	5,592m ² /264,000m ² (確認)	農業基盤整備
やまだ いせきぐん 山田遺跡群E2・K 地点	いちほらし やまだ 市原市山田598-1ほか	12219	セ426	35 ° 26 ' 50 "	140 ° 07 ' 45 "	20071105 ～ 20071225	934m ² /31,132m ² (確認)	農業基盤整備
やまだ いせきぐん ちてん 山田遺跡群J地点	いちほらし まつぎ 市原市松崎701-1ほか	12219	セ427	35 ° 26 ' 47 "	140 ° 08 ' 05 "	20071226 ～ 20080313	1,109m ² (本調査)	農業基盤整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山田遺跡群A～ C・H～J地点	包蔵地	弥生 古墳	溝状遺構1条 古墳周溝1基	縄文土器、弥生土器、土師 器、須恵器、硯、中世陶器	北西側において弥生時代 後期の土器が出土した溝 状遺構、南東側において 古墳時代後期円墳の周溝 を確認した。
山田遺跡群G地点 (文化庁分)	包蔵地	近世	溝状遺構1条	土師器、近世陶器	近世に遡る可能性のある 溝を確認した。
山田遺跡群G地点 (市原市分)	包蔵地	平安 近世	土坑1基	土師器、近世陶磁器	北側において、平安期の 墨書土器が出土した竪穴 状の窪みを確認した。
山田遺跡群D～G 地点	包蔵地	古墳	土坑1基 溝状遺構1条	土師器、須恵器、瓦、中世 銭貨	西側において、古墳時代 中期の埴が出土した土坑 を確認した。
山田遺跡群E2・ K地点	包蔵地	古墳	溝状遺構1条	土師器、須恵器、瓦、中世 陶磁器	格子目タタキ痕の平瓦片 が出土した。
山田遺跡群J地点	包蔵地	古墳	古墳1基 土坑2基	土師器、須恵器、硯、埴輪	後期の円墳を、検出した。

要 約	平成17～19年度の3ヵ年にわたり、農業基盤整備に伴う発掘調査を行った。遺跡は、市内を南北に縦貫する養老川右岸を西に望む、標高11～22m前後の沖積地上に位置する。70ヘクタールに及ぶ広大な範囲を対象としており、低位段丘面や微高地も含まれるが、養老川の旧河道曲流部が隣接し、支流である川坪（かつば）川が中央を横断するなど、水流の影響を強く受けた沖積低地が多くを占めていた。 成果としては、南東部J地点において後期円墳を検出するとともに、周囲から県内では出土例が少ない風字硯が採集された。また、西部F地点では、古墳時代中期の埴が出土した土坑跡を確認し、中央部G地点からは、平安期の墨書土器を出土した竪穴掘り方状の窪みが確認された。二日市場廃寺に近いK地点からは格子目タタキ痕を持つ平瓦片が出土している。遺跡のあり方は限定的であったが、松崎の台地から連なる低位段丘面に春日神社古墳群と近接する後期円墳が群集していたと考えられ、今後につながる成果と言えるだろう。
-----	--

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第9集

市原市山田遺跡群

平成21年3月14日 印刷

平成21年3月17日 発行

編 集 市原市埋蔵文化財調査センター

発 行 千葉県千葉農林振興センター

市原市教育委員会

(市原市埋蔵文化財調査センター)

〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地

TEL 0436-41-9000

印 刷 株式会社 正 文 社

〒260-0001 千葉市中央区都町1丁目10番6号

TEL 043-233-2235